

幼稚園保育の眞諦、並に保育案、 保育過程の實際

— 講習會講義速記 —

倉 橋 惣 三

一、幼稚園保育の眞諦

- 一、教育に於ける目的と對象
- 二、幼兒生活と幼稚園生活形態
- 三、生活へ教育を
- 四、幼兒生活の自己充實
- 五、幼兒生活の充實指導
- 六、幼兒生活の誘導
- 七、幼兒生活の教導
- 八、幼兒生活の陶冶
- 九、幼兒の個性
- 十、幼稚園に於ける保母の位置

二、保育案の實際

- 一、無案保育
- 二、保育案の意義
- 三、誘導保育案
- 四、保育案の據りどころ
- 五、保育案と保育項目
- 六、保育案の立案度及徹底度
- 七、保育案と自由遊び
- 八、保育案と保母
- 九、保母の創造性
- 十、保母の生活性

三、保育過程の實際

- 一、幼稚園の朝
- 二、自由遊びから仕事へ
- 三、個、分團、組
- 四、個の時間割
- 五、生活態度による分團の組合はせ
- 六、流れゆく一日
- 七、流れの向け方
- 八、生活の偶發性
- 九、日々の實際生活の尊重
- 十、おかへり

一、幼稚園保育の眞諦

一、教育に於ける目的と對象

今日は先づ此處に掲げました題目に就いてのお話を致して行き度いと思ふのでありますが、その第一は幼稚園保育の眞諦を題して居ります。これは皆様に對して今更ら、幼稚園保育を云ふものが如何云ふものであるか云ふ事をお話申上げる必要はないのでありますが、私の考へて居る幼稚園保育を云ふものが、こう云ふ風に考へられるのではないかと云ふ事を申し上げ様と思ひます。

従來も色々理論的な方面なごから申上げて居つたのでありますが、もう一度此處に簡單に申上げてみたいと私自身が希望致して居るので、そこで幼稚園保育の本當を云ふものは一體如何云ふ處にあるだらう、これに就きまして色々の方がそれ々の立派な御意見を昔から今日迄、日本のみならず外國に於きましても、持つてお出でになるのでありますが、その色々の考へ方が出て参ります根據は二つあるを考へて居ります。一つはその方の人生觀を云つた様なものから、ある自ら違つた考が出て來る事は當然であります。申す迄もなく、教育はその人の人生觀を離れないものでありまして、従つてそれ々の方が御自分の人生觀に基いた幼稚園をそこに御實驗になる事は當然であるを考へます。でその人の人生觀に基きます相違を云ふものは、これは外の人からはどうする事も出來ないのであります。その人の人生觀を、他人が彼は申しますのは所謂人生觀その問題の中で互に關係する事は出來るのでありますが、教育の中に持つてゆきましてはそこまで深い事は出來ないのであります。そこで若しもその意味からの違ひが出て居りました場合には、これは我々お互に、相手の人生觀を尊重しまして、餘計な異議を差挟んだり、勝手な批評を試みたりを云ふ事は、教育を云ふ範圍内の取扱ひとしては過ぎた事になるかと考へます。もう一つ、幼稚園保育の考方の離れてきます根據は、人生觀を云ふ様な、さう云ふその人にくつ付いて居ります處の深いものではないのでありまして、教育を云ふ事の考へ方の上に於きまして、目的を本體として教育に臨んでゆくか、對象を重んじつゝ教育に臨んでゆくかと云ふ、この態度によりまして又違ひが起つて來るかを考

へます。申す迄もなく教育は、目的なしには一切存在しないものでありますが、その目的の内容が、如何なる人生觀に基くかは別問題として、兎に角或る目的をもつて教育が出發してゆく事は勿論であります。而してその教育は對象があるものでありまして、或は青年を對象とし、或は少女を對象とし、或は幼児を對象とし、或は太郎を對象とし、花子を對象とします處のその對象が、教育の大なる部分である事も申す迄もない事であります。

そこで私の考へ方では教育云ふものゝ方法の依つてきます基礎、従つて教育の方法に伴ひます處の種々な困難、或は無理葛藤悩み云ふ様なものまでもが、この目的と對象の關係から起つて來るを考へます。そこで目的、對象二つとも教育の重要な要素でありますが、これをきつちを主にしてその教育を實行してゆくか、これは必ずしも教育ばかりでなく、人々が實際して居ります時にもさう云ふ考へ方が立つと思ひます。

或人は自分の興味を元にして人を相手としてゆく人もあるし、全然己を無にして相手を立て、ゆかうとする人もあります。これは個人、或は團體の社交の關係に於ても起る事ではないかと思ひます。人間と人間との關係に於て、教育もその二つの違つた態度は免れないと思ふ。その目的を主にしてそれが對象を引付けて來るか、對象を主にしてそれに徐ろに慎しやかにこつちの目的を持出してゆくか、こゝの差別は我々は如何云ふ風に考へたらいいのでせうか。從來に於きましては教育に熱心である云ふ事は多くは教育目的に熱心である云ふ事に盡きて居つた様であります。然し、今日の教育の考へ方に於て、對象の目的に熱心である云ふ言葉は、少し意味のびつたり來ない言葉であります。目的に熱心であるか對象に忠實であるか云ふ事は、今日に於ては長い大きな問題になつて來て居るのであります。私の一寸考へます處では、對象の年齢が進んで參りました、或は青年期の教育でもする云ふ場合になりますれば、その教育は目的の方にぐつと重きを置いてゐるものではないかと思へるのであります。或は相手が年長であつたならば、その年長者である云ふ意味に於て對象をより多く尊重するのが理窟じやないかと思へる。その考へ方からすれば、青年教育に於ては何處までも對象本

位にしてゆくべきであります。私の考へ方では相手をぎつちにした處で馬鹿にするのではないし、尊敬しなかつたのではないのであります。唯こちらの目的を自分達の目的におき換へる能力のあるものに對しては、こちらの目的でつゝ張つていつていゝ云ふ考へ方を運ばし度い。相手が相當の年齢にもなれば、自ら教育を受け様云ふ、相當に進歩した考へ方を持ってゐるのでありますから、此方の教育目的を向ふへ受取つてくれるのであります。勿論向ふは向ふで色んな勝手な考へ方もありませうが、少くも此方の目的を受取つてゆける、心を合せて一緒に教育を纏め上げてゆく可能性は充分期待出来るのであります。さう云ふ年齢になりましたならば、目的をもつて向ふへ向つてゆける考へる事が出来るのであります。

甚だ失禮な餘りに直接な例であります。此處に皆様にお話してゐる時に、この時間は私の目的で皆さんを構はず此處に座らせておきます。色々、皆さんの御希望も心持の動きもあるかも知れませぬけれども、皆様は此の講習の目的を御了解下さる云ふ意味に於て、我々目的を分け前して下さる、そこで御用があらうとも、お疲れであらうとも目的者の方に於てやつて居ります時には、皆さんの方でも同じ心でおいでになる事を此方から要求してかゝるのであります。處が斯云ふ意味に於て、年長になればなる程目的を主にした教育をやつてゐるに反し、幼児の場合に於きましては、扱へば容易い彼等でありませぬけれども……皆様は扱へば難しい彼女達であります……目的を理解して汲んでくれる云ふ可能性に於ては、實に期待する事の出来ないものであります。さうなれば向ふを主としてやつてゆくより外に道が残らないのであります。さうも子供のくせに私が一所懸命やつてやるのにその通りにならないと仰言いますが、實はその主が逆になつております。幼稚園教育では、實に嚴かな重大なる澤山の目的があるのであります。然し乍ら、その目的に、先生云ふ關係になる存在者があり、遊び飛びはねて居ります彼等に向つて、自分の目的を主にして教育計畫の一切を立てゆきましたならば到底、本當の事が出来ないに決つてゐるのであります。

多分思ふ様にならないので子供を責めるか、さもなければ保母の方が三原山に行きますか、極く良心的に考へましたならばさうなつてしまふのですが、幸な事にその間がむやゝ大抵はすんでしまひます。さう云ふ事にならざるを得ないこ

思ふのであります。その考へ方を若し許されますならば、幼稚園保育を云ふものゝ特質は、教育の色々な種類の中で、目的と対象との關係に於て何處迄も対象本位に計畫されてゆくべきものである、と云ふことを先づ斷定致し得るかを考へます。

二、幼兒生活と幼稚園生活形態

この斷定を基礎として、幼稚園に毎日來て居ります子供の事をふり返つて考へてみます。お互は毎日幼稚園に居りまして、毎日來ます子供達をみます、そこに別段改めてあの子供達の生活態度或は生活形態につきまして考へるを云ふ事を日頃はしないのであります。「幼稚園に來たの」、と云へば一切が解決する、幼稚園だから幼稚園で、幼稚園だから幼稚園と云ふて兩方で一切がすんでしまふ様になるのであります。事を新しくそこまで対象を本體としなければならぬこの保育に於て、あの幼兒たちが幼稚園に來てゐる時に、その關係がどうなつてゐるか、これはこの席にお出でになります方は皆様幼稚園の御關係の方を存じますので、忌憚なき云ひ方をしてみますが、私は幼稚園を云ふ所はそこへ子供が來て居ります時に、その生活形態として無理の澤山起り易い場所であるを云ふ事を考へておき度いと思ふのであります。

幼稚園に來るを無理が澤山伴ふ事を考へてみなければならぬを云ふ事は、何ぞ矛盾で、腰の弱い態度であること、と斯う云はれるかも知れませぬが、然し乍ら實際に於てあの子供達の年齢に相應しい眞實の生活形態はどんなものかを考へてみた時に、一組四十人をもつて組織せられましたあの部屋の中で、一定の時間をくぎつて、幼稚園そのものゝ計畫の下に生活をさせられてゆきますその生活形態は、子供に取りましては悪い事ではありませぬ、唯多くの不審を無理が伴ひ易い事であるを云ふ事は充分に考へられるのであります。幼稚園の必要を説く事、此處を考慮する事は判然區別して考へられると思ひます。幼稚園の必要を説く爲に、幼稚園そのものに伴ひます處の多少の無理をも胡魔化してしまふを云ふ事は、第一不誠實であり、幼稚園の必要を説く上に於て、反つて基礎を弱からしむるものじやないかと思ひます。今日我國の幼稚園が、皆様の御關係になつて居ります幼稚園は別を致しましても、相當に、幼稚園關係者そのものが眺めた時に、何ぞ無理な幼稚園だらうと云ふ事を感じさせられる場合は少くも絶無じやありません。世間の人は目的を考へて形態を考へ

ない素人であり、目的さへいゝならばそれでいゝと思つて、皆様の目的を伺つて感涙に咽び、隨喜の涙に濡れ乍ら我子を連れて来て、結構な目的であるならば生活形態は覺悟の前であります。子供がそれを無理等と考へましたならば、私も出て行つて折檻も致しますし、そんな不都合な子供はない筈でございます、こゝ健康に云つてまで幼稚園の目的に心酔して形態を輕んずる素人は随分ある。子供は家に歸る、何處かに幼稚園から受けた無理を表す。親は心の中に、さうだね、私達が小さい時に野原で遊んで居つたあの幼兒らしい生活形態と比べて、あのぎこちない鐵筋コンクリートのあの部屋が竝んでゐるあの幼稚園、そこに這入つただけで、何だか、お前には少し相應しくない様な氣はするが、これが教育と云ふものだよ。「すまじきものは官仕へ」と云ふ文句を借りますれば、辛いが教育だよと云つた類で子供を辛棒させる、斯云ふ事は随分あると思ふ。私共は毎日、私共の致して居ります保育が、いゝ事が何分、無理な事が何分あるかを心配致して居ります。立返つて目的だけで考へる時には、子供に無理のあらう事は何とも思はない、蹶飛ばして勇敢に考へます。處が、對象を用意して對象に忠實である時には、さうも相濟まぬと思ふ事が少くないのであります。貴女方は理想の幼稚園を御實行になつて居られませうから、さう云ふ事はお考へになつた事がないかと思ひますが、然し先づ普通の場合にさう云ふ事を考慮して見る必要位は何處にもあらうかと思へます。

幼稚園の形態と云ふものは、餘程氣を付けませんと、目的實現に於ては大層いゝ方法であつても、對象に忠實になる意味に於ては、無理を伴ふと云ふ事を考へる事に於て、幼稚園保育の眞諦の出發點があるか、私は信じて居ります。一般に教育者は、目的に片寄り易い悪い癖を持つて居ります。丁度、私が親切で斯うして居るのにもつゝ喜んでくれさうなものである、斯う壓し付けがましい人があると同じ様に、教育目的に餘りに片寄り易いものであるので、幼兒教育に於ては特に考へる必要があるかと思ふのであります。その幼稚園形態と云ふものが子供に取つて少くとも無理はなからうか、心配してゆく時に、何に對して無理が無からうか、考へて居るのか、申しますと、子供の能力に對して無理があるか、ないか、云ふ

問題を私はして居るのではありませぬ。子供の能力に不相當な教育をする、そんな無理な横暴な教育はあらう筈がないのであります。幼稚園令施行規則の中の文句を、判然覺えて居りませぬが、幼児の能力に不相當な事をしない様に云ふ事が書いてあります。あれは私は教育者を愚にした注意か云々考へます、子供の能力そのものにあからさまに不相當な教育をする、これだけしか食べられない胃袋にそれ以上のものを食べさせる、そんな事はもごより教育者にあらう筈はない。幼稚園が、子供に無理が無理でないか云ふ事は、能力の問題を申して居るのではないのであります。生活形態が無理か無理でないか云ふ事を私は申して居る。若し、能力だけで考へれば幼稚園の特別の問題ではなくて、個人保育の場合に於ても同じ問題がある。幼稚園云は個人保育ではないのでありまして、幾人かの子供が集つてそこに作る生活形態を幼稚園とする事は申す迄もありません。その生活形態が學齡前の幼児に相應しいか如何か云ふ事が、是れ最も私共の考ふべき點だと思ふのであります。難しい事を教へない様にする、そんなたやすい事を申すのではない、たやすい事を教へても、形態に無理のある事もありますが、又子供によりましては多少は難しいと見える事でも、自然の形態の中では取扱つても構はない場合もあると思ふ程に、形態を尊重したのであります。そこで斯云ふ一つの悪口を申します。今日迄幼稚園保育の研究が、子供の能力に屬する方に於て行はれた程には、形態の問題に就いては行はれてゐなかつた缺陷があるのであるまいか。幼稚園保育の眞諦は何であるか云ふ事は、何を目的とするか、如何なる能力に不相當か云ふ事を考へるのでなくて、如何なる形態が幼稚園の形態を誤まらないのであるか云ふ事を申したいのであります。

然らばその形態は何故そんなに重んずるか、生活は生活形態によつて始めてその眞實なる實質を發揮するものであります。生きて居るものは皆生活して居るが、それが生活らしく充分に生活出来るか出来ないかはその置かれた形態によつて支配されるものである。俺は俺の生活を俺の力でやつて居る云ふ個人的の強さは案外弱いものでありまして、生活形態に如何に取込まれてゐるか云ふ事によつてその生活が生活らしさを齎らすことになる。幼稚園でそんなに形態を重んずるのは即ち生活を重んずるからであります。今日の幼稚園を通觀しまして、痛感に堪えざるものは、(一)この痛感は痛く感

するに書きます、幼稚園に云ふものを一つ組み立て、において、そこへ子供を入れて来るに云ふ趣を脱し切らない事でありませぬ。私共のやつて居ります幼稚園にその弱點を常に自ら感じて居ります。よく私は園の保母諸君と共にお茶を飲みながら話します時に、私にも分らない言葉ですから諸君にも分らないと思ひますが、何だか變だに云ふ事です。お茶と一緒に飲んでしまひますいつもの話が「何だか變だ」に云ふ事で終ります。明日になつても何だか變だ、變だに云ふ事がござうしても取れ切れませぬ。そこが如何に云ふんだに云ふ事をハッキリ言ひきれませぬ。何ぞ例へていゝんだか、何だか變だに云へるだけです。子供が朝、幼稚園へ來ますに幼稚園は受け取ります。それから、幼稚園で幼稚園だからに云ふ趣が何だか取り切れませぬ。幼稚園が子供の生活をござうするに云ふよりも、子供の生活を眞實のそのまゝにして置いて、その中へ幼稚園を作つてゆくに云ふ事は、「何だか變だ」に云ふ言葉の裏に始終ひつ絡つて居るのであります。此處の幼稚園なんかは世間の人がよく斯う申します、何だか幼稚園の様でないですな、に云ひます、中には、何時保育をなさるんですか、なにに云ふ事を、二三時間も參觀なさつた後でお尋ねになる事がある、それ程亂雑であります。實に子供は仕度い放題の事をやつてゐる様な形になつてゐる。この子供が仕度い放題の事をし居ります所以には、私共の子供の取扱ひ方の下手さが半分はあるに恐縮致して居りますが、その半分の恐縮を除いて後の半分は、態にござうしてゐるのであります。そこでその態にござうして置くに云ふ意味の方を中心にして言はせて戴くにします。

それ程幼稚園らしくない形を何にか取つてみる、さうすれば何か本物が出てきはしないかをやつてゐるのであります、それでもさうも幼稚園臭い、私は鼻の鋭敏な方じゃありませんねけれども何だか幼稚園臭い。だから來て見ても幼稚園だに氣が付く様な臭ひがぶんぶんする。子供の臭ひよりも幼稚園の臭ひがする。新しい魚を今迄魚を入れつけて居ります筈の中へ入れるに、魚の臭はしないで、筈臭さの臭ひがする事があります。取り立ての魚に臭はない、生臭ひのは筈の臭である。さう云ふ様な感じがそこへ來て居ります、子供は一寸も幼稚園臭くない。中へ這入つて何かされるに何處かに幼稚園臭さ

が抜け切らない、何だか是を、思ひ切り生活へ教育を持つてゆく事を—教育へ生活をひつばつて来るんじゃない—生活へ教育を持つてゆくことを何まかしなければ、始終私は研究して居ります。

今迄よく私が講習なきの時に、生活を生活で生活へ、云ふ何だかお呪文の様な得意な、易しい同じ言葉を三つ並べてゐるのでありますが、この生活を生活で生活へ云ふ言葉は、その間に、教育云ふ事を寄り付けもしない様な言葉使ひに見えますが、必要であるのは目的の方から云へば、何處迄も教育であります。この言葉は、その教育として存在して居る目的を、対象へ、その生活に忠なる意味に於てさう持つてゆかうか云ふ事を表したに外ならないのであります。若し更らに無遠慮な言葉を使はして戴くならば、現在の幼稚園は大變に變つて來て居ります。進歩してゐるにみまますが、未だこの點に於ては研究を重ねべきものが澤山残つてゐるを考へるのであります。毎日の事でありまして、さつちか云へば教育へ生活を持つてゆく方が樂であります。教育は、一度目的を立て、それに相應しい方法を拵へておけば宜しいのであります。この部屋には六日間この通りのテーブルを置いておきまして、この講堂へ皆さんをお入れすれば、樂にもう皆様がお座り下さる、或は窓の側へ、或は風の涼しい處へ云ふ工合に、所が勝手な自己の生活形態をお取りにならうとする處へ、この目的生活を持つて行かうとすれば仲々骨が折れる。幼稚園も、幼稚園なるものを拵へておいて、そこに子供を入れてその幼稚園が斯くの如き目的によつて出來てゐる云ふ事とさうかしてゆくならば随分樂であります。然し、子供のその時々その事々に就いて生きて動いて参ります處の生活に、幼稚園を順應して行かう云ふ事は容易な事ではないのであります。幼稚園保育の眞諦はそこへ行かない限り考へられないものではないか、私は考へて居るのであります。

三、生活へ教育を

さてその幼兒生活云ふものが若しそのまゝでいゝならば、これは幼稚園もいらなくなつてしまふ、若しも私の唯今迄考へて参りました言葉を非常にさつぱりした人が、あゝさうか、さうかそんなものか、云ふ様なさつぱりした態度で受

取つてたり、暑いので面倒臭い人が、さうかく云ふ様なやり方をしましたならば、これは幼稚園を止める事に結論がゆきさうであります。そんな無理な事は出来ない、寧ろこれは幼稚園を止めればいゝじやないか。

そこで今度は保姆の役柄が變つて來まして、何々幼稚園保姆の肩書きが無くなり、保育行脚、隣保育、ルンペン保育、ルンペンは悪い意味じやない自由濶達の意味に於てある。そこで幼児教育の目的を一杯持つて居る方がそれらの處へお出でになる、あの椎の木の蔭に子供がゐる、あの橋の下に子供が集つてゐる。さう云ふ様な處へ行き、或はよその家の縁側へのこゝ這入つて行き、いたる處、生活へ教育を持つて行く。生活形態のまゝで教育を随所におやりになる様になつたならば巧いと思ひます。私は時々さう云ふ何か巡廻保育を申しますが、延長保育を申しますが、ぶらゝ保育を申しますかさう云ふ會社でも造りまして、これは従つて何處の幼稚園の子供を云ふ事もきめられませぬが、その主人の人が、園長ですが、園が無くなつて仕舞ふから親方を云つたものが、丁度小石川區ではあの邊に子供が居る、何處そこではあの邊に子供が居る。云ふ事を見届けて、貴女はあそこへ行きなさい、貴女は菓子屋の前の子供が集つて遊んでゐる處へ、繪本を持つて行つて、保育に來ましたなんて云はずに買物に來た様な顔をしてその子供の中で遊んでやる、そしてそれぞれその人の報告を持つてゆく、ミス云ふ事をしてやつてみたいと思ひます。是れならば實に理想的にやれると思ひます。私は幼稚園を云ふものを、必ず大塚町三十五番地に建て度いとは思はない、何町何番地の子供の住んでゐる區の中に充分しつらへておき度いのであります。

何によつてその用意をするか、これは子供の生活は子供自身が、自分の生活を充實する力を持つてゐる事を信じますから、是れをよく發揮出來る様な溜りを一番いゝ處に拵へておいてやり度いと思ひます。幼稚園を拵へる仕組の第一の溜意點はそこにあると思ふ。幼児達自ら持つて居ります生活充實の力が存分發揮し得る様な溜りを色んな處に造り度い。こちらの目的を子供に押し付けるに都合のいゝ云ふ事から仕組むのではなくして、子供が來たならば自然に自然に感ずる

か、みんなに喜ぶであらう、みんなに嬉しがらうであらう、みんなに楽しむであらう、或は嬉しくも楽しくも無い程に子供が満足するであらうか云ふ風にしつらへて、溜りを拵へ度いと思ふのです。最も餘り嬉しく樂しませる爲、幼稚園へ滿艦飾をしては、餘りに嬉しく喜んで、自然生活形態を忘れる。そんなものでない。幼稚園では目的は後におく、後におくのは後から目的が出るのじやない。例へば、客を待つて居りますが、何分にも暑い、そこへお客様がお出でになります。今日彼奴が來たら御馳走をしようと思つてゐたから云つて、玄關へ來たらすぐに大きなかつを出す人も無からうと思ふ。兎に角そこへ來ていゝ氣持のする様にそのしつらへをする。

幼稚園も亦、子供が這入つて來た時に先生は確りした目的をもつては居りますが、その目的をふりかざして控へて居るのではありません。之が青年教育の場合は違ひます。そこへずつ子供が這入つて來た時にその子供の生活が自ら自己充實をして行くことによりまして、一頻り、幼稚園にあらずんば得られざる子供の生活が展開されるのであります。こつこつ風にして置くのであります。是れは大切な事だこ私は考へます。

或る幼稚園は子供の生活を、その自己充實を恣にする事なくして、早速教育に取りかゝる。まあ一頻休んでからと思つて居たんじやのに。時々我々は人の處へ行つた時に、今日は小父さんが來ると思つて御馳走を拵へておきましたよこいきなりそこへずらり並べられては到底胸へつかへて食べられるものじやありません。まあ汗になられたでせう、こちらへいらした方が涼しい、云つて先づ伸びやかさを與へられる事だけで意義があると思ふ。

その自己充實は恐らく二つの事で行はれて參りますでせう。一つはさうしても子供を自由に置かなければならない云ふ事。保育に於ける自由云ふ言葉はさうかします。保育全體を被ひかぶせる爲の名前として、自由主義保育云ふ言葉を使ふ人があります。私は絶対反對であります。自由だけで濟むものじやない。却々さうして自由さうじやないけれど、先づその保育のスタート、保育の出發はさうしても自由にやらなければならぬ。今日の幼稚園が自由を取る云

へば仕舞ひまで自由なんです。取らない云へば初めから窮屈です。その考へ方にもう少し問題が残つて居やしないか
ミ私は思ふ。

昨日丁度アメリカの文部省からプリントが來ましたので一寸開けてみたら、その中に新しいナーセリー・スクールの問題
を取り上げてゐる。ナーセリー・スクールの一日ミ云ふものを、如何云ふ様にしてやつてゆくかミ云ふ事で、今回のお話
としては、保育過程の方へ這入るのでありますが、それでは朝來たならば外へ出して置きます、十一時何分になりまし
て仕事を始めます。八時頃から始まるミしますミ、始める前に自由に充分外で遊ぶのです。…時刻になつてお部屋に這
入つて帽子をミつて色んな事をして居ります。これは、今迄相當自由主義をミつて居りますアメリカの幼稚園をみまして
も、進歩主義保育論を讀みましても見受けなかつた事でありまして、私自身幼稚園の朝の問題を考へる場合に於きまして
も、そこ迄は、大膽にミでも云ひますが、徹底的にゆかなかつたのであります。幼稚園へ行きます、そのナーセリー・ス
クールのその書き方によりますミ、いきなり庭へ行きます。これは一面戶外生活を尊重する意味からでもあります、
朝の日光を存分に利用せよミ云ふ教育目的からも出て居ります。朝露の光つてゐる草原に來て遊ぶのであります。先づ一
應お部屋に這入つて、いろんな身仕度を整へて、さうく日光は必要なりけりミ、さう云ひ出すんじゃない、來てその
まゝすぐ庭へ行つて自然に親しむのであります。この幼稚園では、あの小使室の處へ小さい入口があります。あそこか
らずつミお庭の方へ這入る様にナーセリー・スクールのやり方ではなつてゐる、いきなり這入つてゆくの幼稚園の机ミ
は十一時過ぎにしかお目にかゝらぬ、私は非常に面白いミ思ふ、これをすぐ實行させるかどうかは別問題であり、保姆
さんが先づ目を廻すかも知れませんが、私は是れは非常に面白い精神だミ思ふ。何でもかんでも斯うする形で生活
へ教育をミ云ふ事を實現せよミ云ふんじゃない、これはその一形態にすぎませんが、こんな事でも今迄の幼稚園臭いのミ
は餘程違つた形式が出て來はせぬかミ思ふ。氣のきいた小母さんだミ、子供が來るミ、あゝ坊ちゃんもお出でミすか、

さあ〜お庭へ行つて、きんこ〜お遊びなさいと云つて先づ子供を庭へ連れて行つて遊ばせる、子供がお庭を眺めてしきりにむづ〜してゐても小母さんが抑へて、まあ〜保育が濟んでからは云ひませんが、長い御挨拶の後、やうやうお庭に解放を免許されるに云ふのでは子供がかわいさうです。子供を庭へ遊ばせて後、趣味の高い人ならば、挨拶に一時間かゝつても構ひませぬが……。何も庭へ入れるばかりがいゝんじやないが。先づ子供が自分の生活を指導されるばかりではなし、況んや教養されるのでもなく、自己充實の一杯に出来る天地に遊び得るに、斯う云ふ氣持に幼稚園をしむけてゆく。是れ保育真諦の全部ではありませぬが、此處に出發點を置く所以前ではないか、斯う私は考へるのであります。

斯う云ふ様でお仕舞になつてしまふが所謂自由保育。吾々は、これに對して教育をさう持つてゆくか云ふ事を苦心するのであります。子供の襟がみをつかまへて、お前は幼稚園へ保育に來たんだらう。さあ來い來たれ、保育にもつてゆく、あの大江山の様な事をやめまして、もう少し、可愛い人をそのまゝ扱つてゐるうちに、何時の間にかずつと教育に迄行かせる様に、その位の苦勞をしなければ玄人は云へない。少くも三十三年度玄人は云へないに云ひ得るのであります。

四、幼児生活の自己充實

以上は極く基礎的のお話を申上げましたのでありますが、教育はどの教育であつても、相手の生活を尊重するに云ふ事は今日の一般の通説なのであります。其所に、或は教育の生活化とか、或は生活主義教育とか云ふ様な、御承知の通りの言葉が出來て居る位でありますが、その言葉を見ましても、教育の生活化に云ふ言葉は、教育を基としてそれを何う生活めかして行くか云ふ調子が多いのであります。吾々の考では、少なくとも幼児教育の場合に於ては、教育の生活化ではなくて、生活の教育化に云ふ言葉も既に強過ぎるのであります。化して了つてはもう生活の本味がなくなりますから、生活の教育化に云ふこの言葉をもう少し避け度い程に、生活を主體として其の中へ教育を織り込むと言ひますか、挾むと言ひますか、其位の關係で生活と教育と云ふものを見て行かうと斯う考へるのであります。これは昨日申上げました事と少し違

つた方から、同じ問題を見ただけでありまして、昨日は対象が、此方の目的を理解して、その教育に教育を以て共鳴して來て呉れる可能性が多くなつた場合には、目的の方が相當、主になつてもいゝものである。斯う云ふ考へ方をしたのでありますが、同時に又、段々教育そのものゝ程度が高くなつて參ります云ふに、その目的を教育の内容實質に取り上げましたものが相當多くなつて來る。其爲に生活を主にすると言ひましても、その教育の持つて居ります當面の目的が何うしても主になつて行く事は免れないのであります。

然るに、幼児教育の場合に於ては、相手が此方の教育目的を理解してくれる云ふ事は考へられませんし又此方で與へ様とする教育目的は非常に嚴かな、しつかりしたものがあつた譯でありますけれども、それが教育實質に取上げられて來る云ふ點に於ては、未だ極めて茫漠たる趣を持つて居りますから其所で、教育を生活化する云ふ様な順序に考へられる如く、生活を主體として、それに何う教育を用ひて行かうか云ふ事に専ら考へられるのが幼児教育の特色だと思ふのであります。

其意味からして、先づ幼児の生活を尊重する可く、その幼稚園の生活形態に重きを置いて考へなければなりません。心理學的に申しますならば、幼児の生活は、その子供の一人の自發性と言つた様なものであるものであります。併し、此處に申して居りますのは、生活が充分生活らしさを發揮して來る云ふ社會的見方に於て云ふのでありますから、幼稚園の形態をその意味で考慮して行かう云ふ事になるので、その幼児の生活を、充分生活らしさに於て損はない爲には、幼稚園生活形態が、所謂自由の要素を出来る丈多く取る云ふ事は當然であります。自由とは云ふものゝ、寧ろ子供の方に取りますしては、それが當り前なので、此方で、もう少し注文をつけて斯うしたいと思へば、其處に自由云ふ大層事々しい、或は自由を許す云ふ様な意味も出て參りませうが、元來が、対象を主として取扱つて居る幼稚園に於きましては、自由云ふ事が先づ幼稚園生活形態の基礎になつて行く譯であります。その子供の生活そのまゝの動きを許して、それで生活形態の方は宜いとしても、それでは、教育目的の方は暫く引込まして置くのであらうか云ふ風な問題が起る譯であります。

すが、之を、生活それ自身が自己充實の大きな力を持つて居るものだし、斯う云ふ意味で、既に其處へ教育の目的を多少も結びつけ得るものだし斯う考へる。その自己充實に信頼する幼児の生活を^{まがら}死ららにして置きますが、これに就ては、たゞ打つちやり放しに放任して置くに云ふ事とはもさより違ふので、そこが昨日申しました「この意味に於ても幼稚園の必要がある」。云ふ問題に觸れて來るのでありますがその意味をこれからお話して行きます。

幼児の生活

1、自己充實 } 自由 設備

2、充實指導

3、誘導

4、教導

幼児の生活—先づその幼児自身の自己充實に信頼して、出來る丈發揮して行くに云ふ事に保育の一段階を置くのであります。之が爲には實際問題として、子供の方から云へば自由。その爲に幼稚園の方として用意します所の問題は設備。幼稚園とは、此意味に於ては幼児の生活が充分に自己充實の出來る様な設備を自由さを備へられて居る處である、斯う、先づ言ひ得るかと思ふ。その設備が何う云ふものであるか云ふ、そこまで細い問題には此處では觸れませぬが、兎に角設備なしに自己充實を充分にさせる事は出來ない。設備に依て生活を發揮させる。此意味から、幼稚園に云ふ處は、先生が自ら教育の任に當つて子供の生活へ直面して行く前に、設備を云ふ事に非常に重きを置く場所である、斯う言ひ得るので、設備は或場合に於きましては、出來て居る自然の状態を利用して行く場合もありませう。けれどもそれにしては、幼稚園に云ふ中に取入れられた場合には、その設備の後には先生が隠れて居る。その設備をして呉れたに云ふ事に於ては、

先生の教育目的は大いに這入つて居るのであります。けれどもまだその生活目的が幼児の生活へ直面的にぶつかつて來て居ない、而もその設備が充分出來ましても、その設備に餘り子供が束縛されて行くのであつては、此方の希望に添はない。そこでこの意味に於ける大きな心遣ひは、幼児の生活が自己充實を發揮し得る様に、周到至れり盡せりの設備をして置いて、而もその設備自身及び設備を使はせて行きます幼稚園の全體の態度が、何所迄も自由でなければならぬと思ふのであります。此間も此處の幼稚園で或保母の方ミ子供が遊んで居ります處を見て話した事でありましたが、此處の幼稚園の設備は勿論非常に不充分であります。子供の生活の各方面に互つて自己充實をさせる可く、非常に物が足りないのであります。然しその貧弱なる設備ミ雖も、其所に與へられて居ります子供の自由ミ云ふものに依て、子供がその貧弱なる設備をぐんぐん利用して行く時に、この設備ミ云ふものが段々擴大されて行く。若しもその使ひ方が束縛された様な場合に於ては、その設備はその設備の持つて居る一杯を發揮する事は出來ないのであります。子供が自由に其れを使ふ事が出來、そこに自由感が一杯に満ちて居れば、此方で與へた設備が子供の生活に依てどこまでも擴大されて行く。殊にその自由感の中に、即ち此方で子供が勝手に使つていゝ云ふ事を基として與へられて居る設備を使つて居ります時に、普通の家庭に於きましては到底許される事の出來ない生活——自己充實が出來て來る。家庭に於きましては、恐らく廣さが狭い云ふのみならず、その廣さに與へられて居ります自由の全體の感じミ云ふものが非常に狭い。單に空間的に狭い廣い云ふ許りではありません。狭い處でも自由感があれば實に廣い。四疊半の室に立て籠りました、そこに釜をかけて松籟の音を聞いて居ります茶人は、その四疊半が、實に廣やかなものとして悠々たる生活をするのであります。それと同じ様な事で、そこに與へられて居る自由の如何によりましては、さんく廣まつて行く。又逆に假に千坪の廣い場所が與へられたとしても、其處に自由さが少なかつたならば、子供は自分の持つて居る僅かな身を入れる空間以上に千坪を使ふ事は出來ないのであります。

さう云ふ意味からして、幼稚園の與へて居る自由ミ云ふものが、これだけでも非常な意義を持つて居る。斯う云ふ事を

子供の勝手に——着物は汚しましても叱られないし、多少の喧嘩をしましても保母の方がニコ／＼見過して居ります。あつちへ行かうか、こつちへ行かうか大人の目を恐る々々窺ひ乍ら遊んで居る云つた様なものでない。自由に満ち溢れて居ります光景を見ました時に、これだけでも幼稚園云ふものゝ大きな意義がある様な気がする。其所で、話した事でありましたが、斯う云ふ意味からします云ふに、これ以上の事を加へなくても（幼稚園の保育眞諦は此以上のもので加へなければならぬのでありますけれども）これ丈で幼稚園云ふものは非常な意義を持つものだし斯う考へ度いのであります。今日の幼稚園の色々の考へ方を批判的に見ます云ふに、何うも、斯う云ふ事を與へて見ようとして、これでは何だか物足りなくて他の方に行つて了ふ云ふ事がありはしまいか。まさか今日の幼稚園で、幼児生活の自己充實を全然無視して居る云ふ様な亂暴な横暴な事はない。如何に現在がファツシヨの傾向を帯びて居るにしましても、幼稚園までファツシヨ主義云ふものにはなる譯はないと思ふけれども、こゝのところに力が入れ方が足りない爲に他の方に行つて了ふ。もう少し今日の幼稚園の研究を要す可き點を、此處に置いて置く必要がないか云ふ事を大いに考へるのであります。

五、幼児生活の充實指導

所がこゝに出来るだけの設備を與へて、子供の自己充實生活が一杯に發揮したまして、幼児の生活は形態に於ては充分發揮しましても、未だ自己充實そのものでは足りないところがありますから、これを何かで補はなくてはならぬ云ふので、私は假に充實指導云ふこの言葉を擧げて見たのであります。之は今日の教育に於きまして、生活指導云ふ言葉があるのであります。指導云ふ言葉は、第一の自己充實云ふ場合から比べますと、餘程此處に教育者の働き方が加つて来て居る。こゝでは教育者が既に表に立つて居ります。立つて居ります關係からして、その教育者の子供の間に行はれて来る直接の交渉が始まるのであります。それを此方につけて考へるか、彼方につけて考へるか云ふ事で、此所に色々な違が起つて来る。指導云ふ事だけでは、目的へ向つて指導する云ふ風に考へましたならば、此方へつい

て居るものになる。幼稚園の先生が、子供のして居る事に對し非常に自由を許されて居る云ふので、感心して偉い先生だと思つて見ます。何ぞ冷淡にして不自然にして不熱心にして「あゝ私、幼稚園に居る云ふ事を忘れて居た」云ふ様な、のぞかな人であつたりします。所が其反對の先生がある。子供のやつて居る事に就て實に氣になる方がある。何ぞまづき事よ、何ぞへまな事よ、何ぞごんちきな事よ、それじやいけないこれじやいけない云ふ風に、先刻の實に超然たる方に比べます。——超然の反對、何ぞ言ひますが術語を知りませぬが——非常に子供に向つて働きかけて居る。苛苛する程働きかけて居る。いらいらは、自分の方を本體として向ふに要求する、不満足の不規則的體驗であります。自分の要求を以て相手を見て、思ふ様にならない時多分屢々さう云ふ事がありませう。親切であれば、熱心であれば、さう云ふ感じは當然起るのでありますが、之は系統づけられて來ればしつくりした自然になりませうが、之が斷片的に現はれて來る云ふ云ふ苛々になる、その苛々して居る先生は自分の目的を以て子供に望んで行く力が強い云ふ事が出來ませう。ものの強さは、其れ自身が持つて居る強さの他に、その強さを持つて居る物との關係で定つて來る。例へば一ボルトの電流を通じましたらその一ボルトは強くはない。一ボルトを通ずる事の出來ない針金に通じたら針金は切れて了ふ。そこに大變強いものになつて來る。皆様が熱心を以て幼兒にお對しになつた時に、皆様が御自身の目的に相當する丈の強さ太さの針金であつたならば、自分に取つて、さう強いものになりませぬ。熱心即氣違ひなんか云ふものは、これはその目的の強さではなく、その針金が電流に耐へきれない。弱さが片方にあつた言へると思ひます。色々御機嫌の悪い時もありませうから、苛々が起るので御座います。その苛々云ふ様な要素を以て之に向ひました時には、何うしてもこの指導は此方を主にした指導になる。

犬に繩を縛りつけてぐんぐん引張るから、何處へ行くかと思ふ。犬を指導して居る云ふ。後から鞭で打つたり色々して居るから、何をして居るか云ふ。指導して居る云ふ。その方の心の中では實に尤もだ、餘りに尤もが通用しないから舌鼓を打つたり……舌鼓じゃあないですが……チエツなぎと言つて居る。その意味からしますと指導云ふ事柄は

同じ事柄でも此方について了ふのであります。其所で私は、僅かでも指導ミ云ふ言葉に充實ミ云ふ言葉をつけた。教育指導ではない、目的に基く指導ではない。それはまだく此方の話だ。先づ彼等に於て自己充實が出来て居るか何うかミ云ふところだけを指導する。一體、人の世話をするミ云ふ事は、大層な氣苦勞なものださうです。私は餘り経験がない。こつちの思ふ親切を通せば、向ふは大抵は電球が切れて了ふ。そこで、向ふの程度の所へ、此方が御機嫌を取る。「人を使ふのは使はれるなり」ミ云ふ事は、氣の利いた奥さんが知つて家政法則であります。幼兒を指導するには、此方の目的で指導したのでは、指導ミ云ふ形式があつても無理が起る。決して押付けて居るのではない指導して居る、ミ仰言るれどもその指導は此方に屬して行く。私が此所で特に充實指導ミ云ふのは、子供から見ても充實して居るか何うだらうかミ云ふ事でありませぬ。太郎が自己充實して居る、其れ以上の所迄、餘計なお世話かいはしないのであります。大人が子供の側に居て思ふ通り指導してやる。叔父さんなんかよく「お前は何うもさつきから見居るが見ちやあ居られない」この見ちやあ居られない先生がある。偉い先生程見ちやあ居られない。そこで「お前を指導してやる。俺はなあ……」ミ俺を標準にして指導してやるのであります。此所に尠くも言つて置きたい事は、彼等の充實は彼等の充實として一杯行はれて居る、斯ういふところ迄やるのであります。ブランコに乗つて子供が漕いで居ります。ブランコは設備であります。「先生ブランコに乗つて宜しいですか。今度は誰の番で御座んすか」ミ云つて、切符でも渡してブランコに乗るのではなく、兎に角自由感を持つてブランコに乗る。私は幼稚園でちやんミ列を作つて先生が時計を見乍ら「その次」ミ云つてブランコに乗つて居るのを見るミ實に動かざるブランコだと思ふ。ブランコは動いて居るが生活形態は動かない。そこで、取合ひをしてもいゝ。汽車の切符を買ふのに取合ひしてはいけませんが、自己的生活を營んで居る時に取合ひしても構はないと思ふ。さうして子供はブランコに乗り自由に自分で漕ぎます。勿論適當な時間には次の人に譲るのでありますけれども、その譲る事自身が、之亦自由でなくちやならぬ。之亦自由ミ云ふのは、譲らうが譲るまいが勝手だミ云ふ自由ではありません。あゝ待つて居るな、ミ云ふ必然性がある。譲る可きであるが故に譲るのである。中には、ブランコは何の位時間がかゝるか知りませぬが、

「三十秒たるこ」云ふこ、今日は自分一人丈で、誰も居なくても、三十秒経つて下りて、「先生第二回に乗つてもい、ですか」云ふ事になる。誰も居なければ三十秒が三十分、三時間に延びてもい。人が居れば譲るこ云ふのは、之は私は自由の中に這入るこ思ふ。さう云ふ氣持でブランコをやる。其中には、何うやつたらよく漕げるか云ふ事が、自己充實で行はれる。けれども何うも下手で、一寸やつては震動を壊したりするこ、其處へ先生が出て行つて、その子供が一杯に此の子さして漕いだらこの位迄行くこ云ふ事を指導する。之が充實指導であります。「駄目だなあ、漕いで御覽。先生ならこの通り天まで行け」云つて感服させて子供を乗せてやる。子供が恐い々々云ふのにやる。之はいけない。先生は元、ドイツのサーカスに居た経験を基としてやつてるので、其の子が求めて居るこころとは違ふ。私はこゝが難しいこ思ふ。花子は何の位の程度に揺れようとして居るか。此所が見付からないで指導する事は出来ない。

食物等もさうである。私なき始終誤解されて困る。他所に行つて、物を少ししか出して呉れない。所が又非常に優待する意味で、私の求める以上の物を出される事がある。「此間横綱が來た時に之で出した」云つて井で出される。御好意はよいが私に即したのではない。その測量が出来なければ……只ブランコのやり方をするこ云ふのは誰にも出来る。そんな事が保育なら誰にも出来る。頭で何の位云ふ事が分らなければならぬ。そこからが保育になつて來るので、その求めて居る充實の所迄指導して行く。之が實に私、幼稚園の多忙なる仕事は澤山あるこ思ひます。たゞこれは先刻の苛々したジリ／＼した先生には之ではつまりませぬ。もう一つ教へてやり度いけれも幼稚園保育であるが故に此位にして置く。先生としては一ぱい出すよりもこの方がすつこ難しいこ思ふ。私なんか様な、實に力のあり餘つて居ります人間から見ますこ云ふこ——何の力があり餘つて居るか説明しませぬが——力を小出しにするのに骨が折れる。私が朝寢坊してタクシーに乗つて参ります。私のポケットからは十圓札をそのまゝ出すのがいゝのであります。私の手近には十圓札許りある。それで圓タクを七十錢に値切るに骨が折れる。力がある者は小出しにするのに骨が折れる。皆様が此所が出来ない

のに對してお察しする。皆様が皆様と同じ者を相手にして幼稚園をお開きになつたならば、嗚かし良い充實指導が出来ると思ふ。よく海水浴なんかで、お友達同志でやつていらつしやる時には實によくやつて居る充實指導も、幼稚園の子供に合せて行く云ふ事に就ては、この理窟は分つても實に物足りない。始終出し足りない様な變な氣持がする事をお察しするのであります。尠くも此所のコツ、云ふものが幼稚園保育の眞諦の大きな部分を爲すと思ふ。これを飛び越して了つて直ぐこつちの方の、或は教導云つた方に行つて了つたら保育眞諦を誤まる事考へる。

この充實指導をしますには何う云ふ風にするか。之は餘り細かい問題になるのであります。其所迄這入り得ないと思ひますが、まあ今迄申した所を基にして考へましても、先生が子供の中に本當に這入りきつて了はなければならぬ。外からの指導ではなく、中に這入つて居る指導でありますから、子供の中に這入つて居る。彼處で今花子が何かして居る。花子としては何所迄行き得るか、その充實が出来ない云ふ時に、自分を小さな小切れにして、花子に送つてやつて花子いづばいの生活が出来るやうに助けてやる、云ふ事が出来れば實に都合がいゝと思ふ。その意味からして、之は一種の内部指導で、中の方から指導して行くのでありますから、先生は子供の中に這入つて行かなければならない。中に這入つて行く事は、生活形態として中に這入つて行くと共に、子供の心持の中にも勿論這入つて行く事であります。何處に先生が居るか分りませぬ。こゝでは先生はもさより何處に居るか分りませぬ、設備を自由の後に隠れたる先生、姿は見えないのであります。こゝに出しや張つてはいけませぬ。「何うです。設備が豊たらう。この設備は私がやつたのを知つて居るか」等云つて出しや張つてはなりませぬ。充實指導では先生は少し出て來ましたけれども、小さな小人になつて子供の中に這入つて行く、生活充實を指導して行く云ふ意味でありますから、先生は殆んど目立たないのであります。

モンテッソリーのアバラタスであります、このアバラタスを取扱はなければならぬのである云ふ風に仕向けて行く云ふ様な事が、何うして出来るだらうか。モンテッソリー主義幼稚園云ふものをたて、それを聞いた者には義理で

も義務でもやらなければならぬ様に押付けて行くやり方が随分ある。アメリカ邊りでもイギリス邊りでもさう云ふ幼稚園があります。さう云ふ事が何故出来るだらうか。私共不思議に堪へない。モンテッソーリの書物に就て調べて見ます。實に立派なものであります。あのアバラタスはその目的を書いたより以上に立派なものであります。道にモンテッソーリ女史で、子供を云ふ事を考慮してあのアバラタスが出来て居る。

フレーベルの恩物にしても同じ事でありまして、幼稚園に子供が来ます。兎に角、恩物をやらなきやならぬ。「先生、今斯うやつて家を拵へて居るが棒がなくて困る。屋根がなくて困る」、「それは斯う云ふ積木があります」。云つて持つて行つてやるのは充實指導になるけれども、「此處に來た以上は一週間に一度はこれを使はなきやならぬ義務がある、之を使つてくれなければ目的が通らない」。保姆が云つたならば、志は間違つて居ないけれども、幼稚園保育眞諦を失はなれて居る。云ひ度いのであります。

幼稚園に居る間は、子供の凡ゆるよき遊び道具は幼稚の倉の中にいっぱい入れて置いて置いたらいゝ。フレーベルの恩物も勿論ある。クリーブランドの積木、色々あります。さう云ふものを何でも彼でも倉に入れて置いて、それを持ち出したら充實指導になる。斯う思つた時だけ持ち出す。道具の爲に子供を連れて來るのではない。一つの室の中で、此方の子供は何をして居り、彼方の子供は何をして居り、違つた事をそれぞれして居る。する。或先生が「此處では一つのお室の中でまちな事を致すので御座いますか、何て秩序がないだらう」。見る方もあり、なんて自由だ。見る方もありますけれども、私は何も自由の爲からのみ言つて居るのではない。

私は昨日、新宿へ子供を連れて行きまして或る處でお茶を飲みました。まあ其處の様子を見て居ります。實際、それを配る人が大變である。此方には西瓜を持つて行く、彼方にはメロンを持つて行く。アイスクリームだ、ソーダ水だ。色々持つて行く。私は見て居りまして實に愉快だ。己が慾する物が必ず満たされる。實に夏の夜の愉快さがある。彼處に入りまし

て、一、二、三、四と號令で、もう西瓜の時間は済みました、と持つて行かれたならば、一つ一つはおいしくても全體の生活形態が詰らないと思ふ。そんな事を例に出す必要はないが、幼稚園の生活充實、これが一々異なる事は個性であつて、個性を尊重するとか、個人的たる可しとか云ふ哲學的心理學的なものでなく、コンモンセンスからそれと違ふ處が出來て來るのは當り前と思ふ。「さあ皆さん本日は私の考へて居る通りにこれから二十分何を致しませう」と云ふのできちんちんこやる、その方の考へ方から云へば良いに相違ない。目的もいゝ。その結果も恐らくいゝものが澤山生ずるでありませう。けれども、その仕事に行くまでの子供の生活順序を通つて居ないと思ふところに私共の不滿がある。昨日申しました「何だか、もう一つ何うかならぬか」と云ふ所にこの問題がぶつつかつて來るのであります。

人が澤山食ふから私も澤山食はなければならぬ。いくら以上食はなければ及第出來ないと思ふ事はないので、只それを勝手にやつて居る。それで充分その人々は満たされて行く。幼稚園に云ふものは實に立派な働きが出来る。之が家庭では出來ませぬのであります。第一充實指導が出來ませぬ。之は本當にかゝり切つて居なければならぬ。私が、機會捕捉、機會を捉へて教育すると思ふ事を保育原則にして居りますが、詰り之は機會を捉へなければ出來ませぬ。自己充實、充實指導が一通り出來て——之が出來ないで次に進む權能はないと思ひます——次に更に加ふるに

六、幼兒生活の誘導

幼兒生活の誘導と思ふものが始まつて來る。誘導と思ふものは、子供から見ますと、ずつと大人の方が多く働いて居る。指導をしようと思ひましても、何もしないで居る子供があるかも知れませぬ。中には、何時迄も同じ指導許りさせて居る子供もあるかも知れない。そこで、こゝにいふ生活をもう一つ、幅に於て、深さに於て展開して行く、もう一つ強い働きを加へて來ます。幅に於て深さに於て進展させるのみならず、幼兒生活に云ふものはその大きな特色として實に刹那的であり斷片的であるのであります。その刹那的であり斷片的であると思ふ事は、之は幼兒の生活として決してがむべきではありませんけれども、その爲に、生活興味と思ふものは、もつと味はへさうなものが味はへないで居る事がありま

す。本を澤山讀む人の中で、斷片的に讀んで居る人がある。手當り次第に讀んで居る人がある。其の、本を手當り次第に讀んで居る人も勉強にはなるが、残念な事にはその一冊の本よりの事は味はへないのであります。所が若し或一つの問題を頭に持つみか、或一つの中心興味を持つみか云ふ事になります。其小さな一冊の本だけの興味以上のものが與へられて来る。小さな一冊のパンフレットを讀んで見まして、何だ、と思ふ。その問題が關係して来る大きな系統を持つて居る人にはその系統の中に這入つて来るので實に面白い。芭蕉の俳句「古池や蛙飛び込む水の音」これ一つでも面白い。芭蕉の讀み、其角の讀み、蕪村の讀み、嵐雪の讀み、支考の讀み。或は現代の方々の讀んで一々面白いのでありますけれども、若し其人が芭蕉研究をして居るさしましたならば、「古池や蛙飛び込む水の音」が面白いのみならず、芭蕉研究云ふ中にその一句が這入つて来る。和歌の興味云ふものは非常に深いものであるであります。お料理の中にも所謂スープから段々に進んで行く定食云、一皿で行くさあります。多分定食にはずつと行きます美味くないものも、嫌ひなものも出て來ませう。一皿取りますれば自分の好きなものが取れませう。料理そのものは皿の味でありますから一皿づつ食べればいゝのであります。ずつとコースを逐つて行く時には、一皿の味の他に變つた味が出て来る。コースの中に這入つて居るものを取り出して食べたなら美味くなくても、肉の蔭に狹まつた野菜に特別な美味さがある。斯う云ふ爲に、子供が斷片的に生活して行く事はそれで宜しいから、若し子供にその斷片性を、或中心を與へて系統をつけさせてやる事が出來ましたならば、興味が非常に多くなつて來るだらう云ふ事が考へられるのであります。今の例に基づきまして、單に興味が多くなる云ふ比較ばかりではなくして、斷片的興味はその事柄の興味であります。一皿の料理は即ちその一皿のフライならフライ、ピフテキならピフテキの味であります。コースを逐つて食べて行きます。食事の快感が起る。此所に大きな力があると思ひます。寄宿生さか自炊生等が勝手に好きなものが食べられていゝ云つて居るが、其人は一つ一つの美味い味は知つて居るが、食事云ふ味を知らない。食事、云ふのは食事の一つの系統が味ははれる。私

も、自分の家では一つ一つの美味さのない憐れな食物を食べて居るが、兎に角食事である。書生さんで、今日は一皿何を食べた、何を食べた、ミ云ふので大變に贅澤で食道樂で食物通で、何が美味しい美味しくないミ云ふ事は分つて居るが、食事の味を知らない人が澤山ある。

幼児をして、一つ一つの事に興味を味ははせる他に、生活的興味を味ははせて行くには、其凡ゆる食事の味ミ云つた様なものと同じで、或系統が與へられるならば大變に都合がいゝのであります。單に、斷片よりも系統の方が興味の分量に於て、より勝つて居るミ云ふのみならず、興味の本質が違つて来る。生活の面白味ミ云ふものが少し其所に這入つて来るのであります。

詰り自分の生活に或系統をつけた時に、生活興味が起つて来るミ云ふ事は大きな問題であります。其意味からしまして、幼児をして斷片の生活を或中心へ結び付けて行く事が出来るならば、幼児の興味を深からしむる。随つて、幼児の生活を、一層、生活ミして發展さして行く事が出来る。此所に誘導の問題が起つて来るのであります。指導だけならば「ああそれかい、それかい。それを斯うしようとするのかい。ブランコを漕ぎ度いのかい。繪が書き度いのかい」。と言つてその時その子を指導して居るのが指導であります。

此處の幼稚園で皆様御覽下さいます様に、色々の室に色々なものが拵へてあります。這入つて直ぐのお部屋には水族館が出来て居ります。進んで汽車のステーションを中心しました色々なものが出来て居る。彼處で誰方でしたか食堂ミ書いてあるので何か食べられると思つてお這入りになつた方が居りますが……色々の御馳走がある。或は玩具屋の店がある。「あゝこれは暑中休暇の前に何か會でもして、見せ物でもしたのか」ミお思ひ下さいますミ非常に困る。あゝ出来ては居ますが、あの部屋の子供達が何をしても構ひませぬ。朝、來ました以上何が何でも水族館に關係ある事をしなければならぬ、さか、兎に角水族館に來て鯛様鮪様に御挨拶申上げなければならぬミ云ふのではありませぬ。庭で遊んで居て

も構はない。或は突拍子もない事に興味を感じて走り出しましたら、先生は其の子のやつて居る事に向つて充實指導を取られるでせう。けれどもあの組云ふものがありまして、幼児に對して、もう一つ積極的にやらうとする時に、あの部屋は暫くの間夏向きの水族館を作られたのであります。あの組の先生を私知つて居りますが、何も魚類學に就て精通した方でもないし、子供に動物學を教へようとして居るのでもない。唯何かしら——まあそこは別問題として——あれを一つ作つて見て、あれが子供の興味を始終誘導して行くのであります。

汽車の場所で、あの改札口からあの荷物からあの精養軒食堂に至る迄、段々發展して行きました。その發展は、初め一寸汽車のテーマを與へた事に依て、子供の生活が其所迄、ごんごん誘導されて居るのであります。斯う云ふ意味からします云ふに、私は幼稚園云ふものは、自由な設備を用意され、懇切、周到、微妙なる指導慾を持つて居る人が充實指導をして下さる上に、更に子供の興味をよく考へて置いた材料に基いて、子供の生活を誘導して行く中心を立て、何か與へて呉れる、之が一つの意味ではないかと思ふのであります。

こゝで私は皆さんに一つ、私のお話して居ります事の、極く、もこの意味を申し上げます。

幼稚園の保育真諦を此所に語つて居るのであります。幼児教育の問題を言つて居るのではありませぬ。幼児を如何に教育す可きか云ふ問題を此處で言つて居るのではない。幼稚園云ふ Institution に就て言つて居る。幼児を如何に教育すべきか云ふ事、幼稚園云ふ Institution は勿論關係あるものに相違ないけれども、幼稚園云ふ Institution に就て考へて居るのであり、だからこそ昨日「幼稚園に何か無理のある事を始終考へる」を申したのであります。幼児教育そのものに無理は起りませぬ。幼児教育云ふものは、幼児の心理に基いて適當なる教育をして行けば宜しいのであります。之は其れを其れだけいづばいにやつて行けばいい。幼稚園云ふ Institution を持つて幼児を教育して行くのであります。皆様お宅で、幼稚園の子供と同じ年のお子さんをお持ちの方は、家庭に於て教育する場合、幼稚園に於て大勢

の子供を集めて教育する場合も、澤山の共通する事がある。同時に、別な事がある事をお氣付きになると思ひます。その別なところに無理が起るのだ。心配したのが昨日のお話である。そこで私は、此所迄の所は家庭教育でも大いに取るのではありません。お母さんが、家庭として出来る丈の設備を自由さを與へて幼児を砂場のある廣い庭で遊ばせる。

私は此間實に赤面しました。或お母さんが小さいお子さんを連れて来て話した話に「此子は大變熱心で、やり出した事は何時迄もやる。砂場でも、遊び始める一日中やります」と言つた。私はてつきり幼稚園と思つて「この幼稚園ですか」と聞く。家の砂場ですと云つた。砂場位作るのは當然の事であるから何でもないが、何うも其所が商賣の辛さで、砂場を聞く。幼稚園と思ふ。ブランコだつて何だつて家庭の庭に置ける物であります。お母さんも自由さを充分與へて宜しい。子供は幼稚園では餘り要求しない。「大勢の子供を先生はお世話なすつて、お忙しい。自分が無理を言つても悪いだらう」と注意して居りますが、家庭では一寸困る。「かあちゃん、お父さん」と呼んで来る。お父さんお母さんは元來が教育目的を主にして居るのではなく、坊やが可愛いから「何、うするのかい。之でお前の自己充實は出来たかい。満足されるかい」としてやります。其處へ他の人が来て「何ですお母さん。下手な事をやつて……」と笑つても、坊やの爲にして居ると云ふので一生懸命やつて居る。幼稚園の先生になる。其所の所が反つて難しくなる。そこで、充實指導迄は家庭で出来るが誘導になる。家庭で出来ない。然し夏休の間だけでもやる。良い。水族館でも何でもいゝ。人が来て、玄關に水族館があつたり食堂があつてはおかしいが「休みであるから誘導設備を作りました」と云へばよい。所が平常は出来ない。たつた一人の子供の爲に充實指導迄は出来るが、誘導は却々難しいと思ふ。之を相當大任掛にやつて行ける所に、幼稚園の Institution としての存在價值がある。

又或る部屋には幼稚園を本體とした廣い地形地圖がある。皆様が休憩して頂くには實に邪魔で、誰かが、あの女子高等師範の上に腰掛けないかと思つて居るのでありますが、あゝ云ふものを家庭に置いた日には蚊帳をつる事も出来ない。此

所が幼稚園の幼稚園たる、實に子供の爲の場所に来るいゝ所だと思ふ、高價なものでも、子供の爲なら使ひ得る、斯う云ふ事が私は餘程保育精神のいゝ事と思ふ。机を置いて時間を計つて、計畫を立てゝ、「さあ諸君、教育を受けに来ましたか。之をしてゝゝ、出来たらお歸り。さあ……」。云ふ事では其處に行つたから云つて別に自己の生活が大いに誘導されるものではない。

私は時々デパートに連れて行かれる事があります。するに大勢の人が来て居るのを見て何時も思ふ。皆が買物に来て居るのではない。お客の大部分は見物にいらつしやる。「見物させてもつまらないね」云ふに、「此處にいらつしやるに欲しくおなりになる。欲しくおなりになりさへすれば今日お買ひにならなくても商賣には宜しい」云つて居る。却々する。幼稚園に子供が来て、何だか這入りたての子供がブラ／＼して居る。始めて南洋から出て来た人が三越に行つた様に「何があつたか」聞くに「何もなかつた」「時計を見たか」言へば「何もない」云ふ。「やつぱり彼處にも椰子の植木があつた」云ふ。さう云ふ人は實に何の益もない様ですけれどもさうでもない。幼稚園に這入りたての子供がブラブラして居る。家に歸つて来るに「今日は何うしたい」聞く、「別に何うもしないよ」「じゃあ、まあ一月は保育料たゞだね」なんて云ふ。所がその幼稚園には種々の物があるものですから日に日に生活が誘導されつつある。さう云ふ意味で幼稚園には誘導云ふ仕組みを澤山置く必要があると思ふ。この誘導がつまり一つのプロジェクトになつて来るのであります。生活の自由からずつと出て來ます所の動きが、誘導に依て導びかれて、其所へあるものがずつと進んで來ました時に、こゝに始めて

七、幼児生活の教導

教導云ふものが出て來るのであります。之が教育の中では差しあたりの主の問題になつて居りますが、私は、之を今迄申した斯う云ふ風なもの後に持つて來るもの、斯う考へ度いのであります。この教導云ふのは何か言ひますに、幼稚園保育眞諦としては最後にあつて、極く一寸する丈であります。子供の方から云へば敢へて其所迄來て居りませぬものに向つて、「あゝ此子にはもう一つ之を付け加へて行かなければ……」云ふものが出て來る。

此所迄は子供の持つて居るものを指導した丈であり、子供の生活を誘導して来た丈であります。子供が水族館の魚を拵へるに云ふ。水族館が出来て居れば魚が作り度くなる。鯛や色々作りましてさうして先生の處に来て「もう他にないの？」と聞きました時に他のものを教へていゝでせう。或は何も聞きませぬでも此子の力一ぱい満たされた時に教導の方に這入つて行きませう。

私は斯う云ふ意味で段々進んで来て、其所に保育の保育らしい一つの特色を表はして居るかと思ふ。

詰り幼児の生活に云ふものを、生活の本質を毀さないで——生活の本質を毀して此方の目的通りに行かなくては別の問題であります——、保育して行くに云ふ時に、斯う云ふ順序に進んで行くに考へたいのであります。

八、幼児生活の陶冶

斯う云ふ事で、所謂幼児の能力が段々發展されて來るのであります。この他に幼稚園は、併せて幼児の道德に云ふ事も考慮に入れなければならぬのであります。所謂生活陶冶に云ふものをして行かなければならぬ事も勿論であります。繪が段々書ける様になつて来たに云ふ様な、生活性そのものが發展して行きます他に、陶冶に云ふ事も考慮しなければならぬのであります。此の陶冶の問題に就ては、從來の或やり方に於きましたは、普通の生活指導によりやつて行きます他に、何か或る特別な方法を講じて陶冶の目的を取つて行くに云ふ様に思はれる向きがないのであります。乍併私は、幼児生活が生活として發展して行くのみならず、陶冶されて行く、に云ふ事も、亦斯う云ふ順序に於て行はれて行くものだに云ふ事を、此所で併せて言つて置き度いと思ふのであります。例へば意志が強くなつて行きますか、感情が洗練されて行きますか云ふ様な問題も、子供自身の自然にやつて居ります生活も、斯う云ふ風に保育して行きます間に、伴ひ生ずる事として考ふ可きであらうかと思ふ。隨てその陶冶は、目的をしましては或理想的な完全な事を目的としますけれども、その幼稚園に於て實際行はれて來ます陶冶は、何所迄も其の生活に即した陶冶であると思ふのであり

ます。

人間の意志は幼児に於て、何れ位の強きに迄進んで行くか云ふ事は、目的の方から出て来る。色々……何でも彼でもそこへ持つて行かなければならぬ云ふ事は、目的に忠なる理想から云へば望ましい事でありませぬ。斯う云ふ順序に段々やつて來ました時には二年或は三年の保育に於きまして、或子には幼稚園が一尺の進歩をさせましたが、或る子は或處までしか行かない。一人一人に依りまして陶冶され方が違つて来る。斯う思ふ。能力の方に於て一人一人が違つて居る事は誰も認めて居りますから、教育の結果に於きましてその違が起つて来る事は容易に是認するのでありますけれども、陶冶の方に於きましては、さうも道德的陶冶云ふ方に重きを置きまして、生活的要求を以て子供に望む風が勤いのであります。斯う云ふ意味から考へて行きます云ふに、その子その子に於て違つた結果が其處に出て来る事は止むを得ぬ。或は當然であるを考へられるのであります。

九、幼児の個性

斯う云ふ意味からしまして、此所に幼児の個性云ふものに就て一つ考へて置き度い云ふ事が起るので御座います。幼児の個性がそれぞれ違つた色彩を持つて居る云ふ事は、心理學的に調べて、今更言ふ迄もない明かな事でありませぬ。或は、人間が皆同じと思つて居つた無智な時代があつたかも知れませぬ。然し今日に於きまして、心理學的に考察せられたる個性差別云ふものは誰も認めて居るのであります。又随つて、その個性に基いて教育して行かなければならぬ云ふ事もよく分つて居る事でありませぬ。その結果をしまして、今日、教育者の方々が幼児の個性を先づ知らう云ふ事に就て、非常に重きを置かれる。之は誠に當然な事と思ふ。然し私がこゝで一つ言ひ度いと思ひます事は、個性尊重、兒童心理學的に個性を知る云ふ、これが詰らぬ云ふのじやない。不必要云ふのでは決してありません。乍併私の此所と言ひ度い事は、今迄申した様なやり方で保育が進んで行きますならば、當然その保育は個性的になつて来るのじやないか云ふ問題であります。豫めその子の個性を調べて、その個性に相應しい様に相應しい様にこやつて行く云ふのは、心理

學的に考へました通りの順序でありますが、之も、出來ますれば大いに吾々の參考とし、注意條件としたのであります。假に此處へ這入つて來ました子供の個性が、はつきり分つて居りましたも、何の子も皆、一樣に出發して行くことれば自ら個性以外の保育は出來ない事になるのではないかと云ふ事であります。中には、幼稚園へ子供が參りますと、暫くの間何もしないでたゞ子供を調べて居る方があります。さうして「何をして居るのか」と云ふ「現代教育は個性に基つたざる可からず。そこで個性を調べて居るのである。親に聞いても分らぬし……それが分つたら徐ろに此子の爲に教育しよう」と云ふ事を言つて居る方がある。之は心理學的に考へるに實に正しい順序なのであります。けれども私は、その子の個性が心理學的に分つても分らないでも、兎に角、之にすうつと這入つて行けば、自然にそこに出て行くのではないかと云ふのであります。一體個性と云ふ様な事は、人間生活の中から、其子の性質と云ふものを、學問的に抜き出して考慮する事に依て始まつた問題なのであります。例へば家庭なんかに於きまして、家族は互に個性を個性としては何も知りませぬでせう。親は吾子の事に就きまして、何う云ふ個性であるか聞かれた所で、はつきりそれが言へる譯ではない。けれどもその親はその子の生れましたその日から、その子に就てたゞ、斯う云ふ生活をして來たのでありますから、若し之を正しくやつて居さへすれば幾つになつても其子に相應しい事以外の事はしない譯であるのであります。

斯う云ふ意味から、個性と云ふ問題を心理學的に言ふ意味ばかりに考へないで、所謂、保育の實際の方から見た所を考慮に入れましたならば、心理學的に考へたよりも、より生きたものとして吾々に取り入れられるものと考へ度いのであります。之は少し矛盾した様にお聞きになるかも知れませぬが、吾々は保育的生活をすれば、きつと個性的になつて行くこと云ふ事を、心理學を離れて斷言し得るのであります。乍併、斯うやつて居りましたも、その子の個性と云ふものを吾々は、書き表す事も、集める事も、他と比較する事も出來ない。個性をはつきりつきつめる爲には、科學の力によらなければならぬのであります。であるから私は、あの科學の調べによりまして、個性がはつきり吾々に分りますけれども、それを基に

してのみ個性教育が出来る云ふならば、あまりに科學が吾々教育の實際を軽く見て居る、斯う言ひ度いのであります。個性に基づかさざればいかぬ、云ふのは法則でも何でも無い。心理學が吾々に注文して來る法則でも何でもないので、斯う云ふ風に保育眞諦に基いて保育を致しますならば、自ら個性に即した教育になる云ふ事を一言申して置くのであります。随つて斯う云ふやり方をすれば、個性教育の反對の一齊教育にはなりません。劃一教育にもなりません。一齊教育劃一教育を吾々が避けるのは、個性の差別が人間にあるから一齊教育をしてはいかぬ云ふ、科學的理論を立てるだけじやなく、斯う云ふ風にコンモンセンスにやつて行けば、一齊教育には到底なれる筈はないのだ、云ふ事を、教育云ふものゝ限界内に於て斷定し得る云、斯う申し度いのであります。

斯う云ふ意味からしまして、昨日申しました、何だか物足りない。何だか變だ。幼稚園云ふものももう一つ生きて居る様なものになるまいか」云ふ事を、斯う云ふ所から考へて行き度いものだと思ふのであります。今日の幼稚園は、何うも斯う云ふ意味から云ふ可成り距離の遠いものではないかと思ふ。目的から出發して、その目的を何うして子供に與へ様か云ふので方法論が生れる、其所だけに止まつて居るから一齊教育をしても平氣なのではないでせうか。或は劃一教育で行くのは目的の統一から出る。目的に色々ある譯はない。一つの目的で幼稚園はやつて行く。其所から行けば一齊教育劃一教育になるのは寧ろ當然の事と思ふのであります。さうして、一齊教育云ふものは、個性を無視するからいけない、心理學に注意を促がされて、何うしてこれをバラ／＼に毀さうかとするその順序が、抑々既に間違つて居ると思ふ。之が私のこのお話の本旨なのであります。

そこで私はもう一つ、幼稚園云ふものを何う云ふ風に變へて行くか云ふ事を、頭に置き度いものだを考へるのであります。

十、幼稚園に於ける保姆の位置

そこで斯う云ふ風に幼稚園の保育眞諦云ふものを考へて來た時に、その幼稚園に於ける保姆云ふものゝ位置は何うなつて行くか云ふ事を一つ考へなくちやならぬ。何所迄も幼児云ふものゝ生活を主體として幼稚園が出來て居ります以上、幼兒のその幼稚園に於ける位置は分つて居るのでありますが、保姆云ふ教育者の位置は何う云ふものになつて來るであらうか。之に就て私は、幼稚園の保姆位、實に何ぞ申しませうか、心遣ひの細やかさで保育をして行く仕事はないと言つていゝ位だと思ふのであります。幼稚園の保姆云ふものゝ生活は、實に心遣ひの細やかさ云ふ事で一ぱいであります。心遣ひの細やかさ云ふ事を、もう一つ俗な言葉で言ひますれば……云ふよりも表はれて來る形から言へば、實に氣が利いて居る、云ふ事であります。若しも自己の目的があつて、その目的を子供に傳へる事を以て任務として居るならば、そんなに氣が利いて居なくても、細やかな心遣ひをしなくても、仕事は出來て行くのであります。上手下手云ふ事で大體が定つて來ませう。所が、目的は目的でありますけれども、保育眞諦で相手を或る所迄進め、それからそれへこやつて行くならば、實に細かく氣が付かなければならないのであります。然も氣が付いてやつて行きますけれども、此方の取つて居ります態度はごこ迄も子供本位に行かなければならぬ云ふのですから、細やかになる。ですから一ぱいに氣の利いた働きをしても、その人の幼稚園に於ける存在は極めてくつきりしないものであります。くつきりしない云ふも、何だか幽靈の様になつて來ますけれども、畢りその先生云ふものは、非常に大きな働きをして居るのであります。其先生の存在云ふものが子供の生活を支配する迄に強い存在になつて來ないのであります。その、強い存在にならない云ふ事は、誰に對して強い存在にならないか言ひますと、先づ第一に、一般に外から見ました時に強い存在にならない事は勿論、第二には、其處に居ります子供自身にこりまして強い存在にならないのであります。此處のところが、私、幼稚園云ふものゝ本當の特質を表はして來ます上に、非常に大事な問題になつて來るかと思ふのであります。子供に對しては何處迄も強く響かぬのであります。強い存在ではないけれども、その先生のその仕度をする事に於て、指導

する事に於て、教導する事に於て、實に氣の利いた細やかなる心遣ひで一ぱいの活動をして居る人でなければならぬ。まあ私は幼稚園に於ける保姆の位置ミ云ふものをそんな風に考へ度いのであります。その位置を取つて居ります保姆の方が、實際の上に於て何う云ふ風に働きをして居るかミ云ふ事は、保育過程のところで考へたらいいと思ふのであります。が、之が普通言ふ所の保姆中心保育でなくて、幼児中心保育ミ云ふ事も私は言ひ度くないのであります。尠くも保姆中心保育でない幼稚園ミ云ふものを其處に生じて來る所以になるかミ思ひます。

生活を尊重して、生活に向つて此方から教育を持つて行く。その保姆さんの中には凡ゆる教育が一ぱい用意されて居る。それを誘導する事に於て、隠された力を非常に使つて居る。斯う云つた様な時に其保姆さんの働きミ云ふものは實に私は：：何ミ言ひませうか、方法的存在を超越して來る様な氣がするのであります。

目的を、向ふへ徹底させる爲に考へられるものが方法であります。けれども此方で先に方法を立て、置いて、あてがつて行く事は出來ないミ云ふ事になりますミ云ふミ、方法的存在以上のものに、幼稚園の保姆ミ云ふものがなつて來るのであります。

こゝで私、最後の一言を申して一くぎりを終らうミ思ひます。

「今の幼稚園がもう一つ何だか變だ」ミ云ふ事は、段々こんな風に話を突きつめて來ました時に、保育方法の實行所ミ云ふ風に幼稚園がなつて居るのが、其處が「何だか變」になる所以ではないかミ私は思ふ。保育方法ミ云ふものが一つ何か考へられて、その保育方法を此處に實行します、ミ云ふ風に定めて行く趣きが、幼稚園ミ云ふもの及びその幼稚園に於ける子供の本當の生きた生活を、何處かで殺したり固めたりして行くのじやないか。

幼稚園に、何だか子供の匂がしないで、幼稚園らしい匂がブン／＼ミ鼻につく。その匂は何處から來るかミ云へば方法ミ云ふものを先に拵へて持つて來る、その方法に付いて居る匂ひではないのでせうか。況んやその方法が十年來ちつこも變

らない方法であれば、古臭い匂ひも付きませう。或は七月に使つて居た方法を休みの間、何處かに藏つて置いて、九月になつて又その方法を出して來て使ふ云ふ事になれば、この間に徹臭くなつて行きませう。仍で古い方法を換へて新しい方法にして行けば、その古臭さは減つて來るのでありますけれども、然し如何に新しい方法であつても、方法の方を先に立てて置いて、それを子供にやるこ、斯う云ふ風に考へるこ、何處までもその方法の匂ひ云ふものは逃げ切らない。斯う思ふ。

之が實に幼稚園の難しい所で、方法が定つて居て方法を適用する云ふやり方、この方法を如何にして子供に合せるか云ふやり方ならば難しい事ではないけれども、一人々々の子供に方法が生れて來るこ考へる所に、此所に實に幼稚園が始終生きて居る所以を生じ、幼稚園の臭さを除いて居るものではないかと思ふのであります。

これは後の事に繋ぐ問題として、之だけの事を申上げて置きます。之で幼稚園保育眞諦云ふ事の概括的なお話を終る次第であります。

一、保育案の實際

一、無案保育

これから第二の保育案の問題に這入りますが、私の平常説いて居ります處が、從來の或意味の保育案に對して多少非難を試みたりするものでありますから、その意味かちして我々の考へ方は、全然保育案なしで以つて幼稚園をやつてゆく事を主張してゐるかの如く取られてゐる事があるのであります。是れを假りに無案の保育と申します。然し乍ら、苟も子供を集めて目的をもつて教育をしてゆきます時に、全然何等の心構へ、或は計畫、或は規定、立案云ふ様なものが無しでやつてゆける筈はないのであります。若しさう云ふ事が出來たとするならば、これは恐らくその日暮しになつてしまふと思ふのです。故に我々は保育案云ふものを立てる事、その事については決して反對しないのであります。若しも非常な

頭の中の自由主義よりも、性質上の自由主義の放蕩な人がありまして、行き當りばつたりで毎日の保育をして居つて、それが新しい保育である云ふ事を云ふ人があつたさしますれば、是は、私共として無責任な保育者として反對を仕度い位に思ふのであります。

二、保育案の意義

然し乍ら、だから云ひまして従來行はれてゐる或種類の保育案そのもの云ふよりも保育案の立て方の根本の考に就いては、私共多少の疑念を持たざるを得ない。是れは何も變つた事を申すのではなくして、今迄考へました幼稚園保育の眞諦云ふものをあゝ云ふ様に考へる事を許されるならば、保育案も亦あの上に乗つて來なければならぬ。幼稚園保育の眞諦は子供の生活に教育を持つてゆくの、此方に目的はあるけれども、日々に行つてゆく保育の實際の動きは、子供の性質の方へ此方から合せてゆく云ふ様に考へたさしますれば、その子供の日々の生活を無視した此方の目的だけを盛り込みました保育案が、幼稚園として適當でない事は當然の結論になつて來るのではないかと思ふ。

ですから保育案の如何云ふのがいゝか悪いか云ふ様な議論は、保育案そのものを比較していゝ悪いを考へる前に、その幼稚園の取つて居ります處の子供の生活に對する態度の如何に依つて違つて來る事を認めなければならぬと思ふ。その意味でまあ、悪口を云つてみますならば、従來保育案の中に於て行はれてゐる色々なものの中には、私共からみれば幼稚園保育眞諦に於ける保育案と稱する事の出來ない保育案がありはしないかと思ふ。單なる時間割に過ぎないものを保育案と稱してゐる方があります。例へばこの講習會に於きまして、お手許に配つてあります名簿の裏の時間割が、きちんと四角の枠の中へ填み込みまして出來て居りますが、あれは決して此の講習の皆様を、さう生活させようか云ふ意味から云つたさすれば、何等の意味をもつてゐないものであります。此方の方である目的をもつて居りますので、その目的を六日間の午前午後如何分つのが便利であらうか云ふだけです。丁度、何か御馳走を拵へまして、お客さんに如何云ふ風に是れ

を盛り分け様か云ふ、皿の盛り方をしてみるのミ別に變つた意味を持つてゐないのであります。あゝ云ふものは保育案じやない。月曜日の何時から何時まで何々をして……云ふ譯で、一週間の間に談話が幾つあつて、隨意課が幾つあつて云ふ事を角の中へ細切れの様に、切貼の紙の様にその中へ盛りました處で保育案ではない、時間割であります。私が何もさう云ふ事を申すばかりじやなく、又別段さう云ふ判然した聲を表へ出して云つてゐる人がある譯じやないが、近來の色色の所謂新しい幼稚園の方を御覽になります。保育案云ふものミ時間割ミは別になつて居ります。さう云ふ例を申上げますれば數年前にコロンビヤ大學の幼稚園及び尋常一年を合せました幼稚園から出して居りますコンダクトカリクラムにその例があります。又、ミス・ヒルの案には、幼稚園及び低學年教育は、概念を主とした教育でなくして、動作、行ひ、性格の實體的なものをもつてその内容ミする、云ふ處から、コンダクトカリクラム云ふものが出來てゐる。そのコンダクトカリクラムの事は、その本が出て後、始終こんな事を申上げて居つたのであります。幸にして、つい數日前、私の手許へお送り戴いたこの本が即ちコンダクトカリキュラム、でコロンビヤで出した本であります。大阪の保育會の調査部で譯されて、大阪フレール館支店で發行して居りますが、之は大阪保育會の立派な業績であります。是れにはコロンビヤの幼稚園及び一年生が、如何云ふ風に教育されてゐるか云ふ事の、一年中の計畫が載つてゐるのであります。是れは御參考の爲に御覽になります事をお勧めしたのであります。「コロンビヤ大學附屬幼稚園及び低學年級の過程」ミなつて居ります。その本を序に御紹介をおすゝめしたいのであります。この本をバラ／＼開けてみます云ふ。これ全體が保育案であります。私の考は兎に角、コロンビヤ大學で考へてゐる保育案はこれでありまして、その中に特に時間割が這入つて居る。時間割ミ保育案は別なのであります。此の時間割をミつてしまつても保育案があります。保育案の中へ、保育案を運用してゆく處の極く實際の心覚えミして時間割が出てゐるに過ぎないのであります。ですから昔の幼稚園の保育室の入口に掛けてありました藍筋の時間表、あゝ云ふものが即ち保育案云ふ考へ方は先づ私の意見云ふよりも、誰が考へ

ても別なものとしなければならぬかと思ふ。

そこでそれについての問題はその時間割は必要か如何か云ふ問題でありますが、最も新しいと稱されて居りますシカゴ大學の幼稚園、コロンビア大學の幼稚園、時間割を持つて居ります。私はもう古い事になりますけれども、是等の幼稚園を訪問しました時に時間割がきちんと附いてゐる事について非常な異様な感をもつてきたのであります。兎に角時間割が出来てゐる。その時間割は何時に幼稚園に来てさうして先づ何分間如何云ふ事をして、如何云ふことをして、段々午後になつてゆく云ふ様な事であります。處がこの時間割をみます云ふに、我々の普通考へて居ります時間割を少し違ふものが發見されて來る。是れは段々にこちらから與へようとするものをあの藍筋の中へ切盛りをして入れた云ふ教課過程時間割に過ぎないのであります。その教課過程時間割よりも、何時に手を洗つて、何時にはばかりに行つて云ふ様な種類の事が、ちゃん時間割に大きな内容として位置をしめてゐるのであります。何時にはばかりに行つて云ふ様な事は、大さう無理の様な話でありますけれども、それも大體決めてあるのであります。これは外國の幼稚園云ふよりも、外國の生活全體が實に御承知の通り、生活規則云ふものが時間的にきちんとなつてゐる。極端に云へば日本のやり方はだらしないうり方だ云ふ西洋人が云つてゐる程に、向ふではきちんと云ふことなつてゐる。その生活の實際のきちんとしたものを幼稚園に於て崩さない様に、一層それを嚴密に守つてゆかう、さうしてよい生活習慣を子供に付け様、云ふ事が、大いに取入れられてゐるのであります。この生活規則云ふものを決めてゆく云ふ事を考へました時には、さうしても時間割を立てなければならぬ。つい遊んで居たから十時に飲ませる果物の汁を十一時に飲ませてしまつた、だから順に御辨當が遅れた。何處か遠くの方へ子供を連れて遊びに行つて、ばつたが澤山居た爲にお辨當が三十分遅れた、云ふ事を平氣でやつて居れば、何でもない事ではありますが、さう云ふ事を非常に嚴密に考へる、時間割を元にして先生はその所でも始終考慮して考へなければならぬのであります。でありますからこの時間割に就きましてはさう云ふ生活規

定の方を主體として、コロンビヤ邊りの幼稚園でも立てられてゐる。私はこの問題それ自身に就きましては、改めて申上げる事があると思ひますけれども、兎に角、その時間割が此方の教育目的の内容を切り盛りするだけの時間割とは違つてゐる云ふ事だけは認めておき度いのであります。よき家庭に於きましては矢張り時間割があります。何時に起きて何時に顔を洗ふ。だらしなくぶら／＼してゐないで何時には朝御飯が食べられる様に、何時にはお八つ、何時には睡眠、何時には又お八つ云ふ事がきちんと決つてゐる。その生活過程の内容の事は決つてゐない家庭生活に於いて、この時間割は立つてゐるから、幼稚園に於いてその意味の時間割がある事は當然だと思ふ。

然し乍ら、若しもさう云ふ事でなくして、唯、談話、自由遊び、唱歌、觀察……、觀察が又此處に出たから一日おきにしようとか、此處は重なつてゐるから見た體裁が悪いかよさう、云つた工合に、丁度時間割を、事務員か工場ミかがしゐる様に、さうしたら是れが當て嵌るだらうと考へたり、始めての保姆がさうしても觀察が三つ這入らない、ミ苦心する様な、さう云ふ時間割はいらんミ私は思ふ、いらんミ云ふよりもさう云ふ時間割が生活へ教育を持つてゆくあの保育の眞諦に於ては、そんなに出来るものではないと思ふ。ですからその生活云ふもので子供が夢中になり生活が満されて居る時に、胃袋の方はちやんミ機械的に運動してゐるから、此處でお八つをやらなければならぬ云ふ様な時間割を決めるならば宜しいのであります。そこで今申して居ります事は二つの問題がこんがらかつた様であります。先づ時間割云ふものが必要でないか云ふ論を半ば云ひ乍ら、寧ろ時間割ミ保育案ミは別なものだ云ふ事を力説してゐるのであります。時間割が即ち保育案ならば、是れをその日暮し幼稚園に對して、あてがひぶち幼稚園ミ名付け様。先生今日は何をやる？私の生活なんかは、あてがひぶち幼稚園ではさせるものか、云ふ子供が出て来る、先生の方で、子供の生活がみんなに澄刺してゐるか云ふ事はみんな感じない。唯あの時間割できちん／＼やつて居れば、片方に時間割と同じ紙があつて、豫定通り／＼云ふ事を書いておけばその日が済むのであります。斯う云ふ様な事を私は保育案云ふものに入れ度

くないのであります。入れ度くない云ふよりはさう云ふ事は生活を主にしてゐる場合には出来ない事でありませう。

さうするに保育案に云ふ事の本當の意味は何であるか云ふ事になりますが、是れは、私の考を一杯に強めて云つてしまひますならば、幼児生活の自己充實に、此方で案を立てた様なものであります。充實指導に案を立てた様なものであります。本當に案らしい案が立つのは、幼児生活の誘導の處へ案が立ちます。誘導の本體として計畫される處へ案が立ちませう。即ち幼児生活そのものを、さう拵へ、形を變へてゆくか云ふ事ではなく、幼児生活をさう誘導するか云ふ處に、保育案が立てられると思ふのであります。

それからもう一つ保育案の意義があります。今のは何處までも子供の生活を本體としてそれに即して考へたのでありますけれども、云ふ迄もなく保母諸君の方にも目的がある、その目的を、片寄りなく子供の生活の中に持つてゆくに就いて、全然先生だけの注意として、斯う云ふ方が缺けない様に、斯う云ふ方が多過ぎない様に、云ふ事に注意して案を立てるに云ふ事は必要だと思ふ。殊にその目的は、漠然たる大きな大局的目的が實際化して來るのでありますから、一番小さい子供にはどんな事をしやうとか、年長の者にはさう云ふ方面をすゝめやうとか、斯う云ふ目的が子供の年齢に應じて色んな方面に分れてゐるに相違ありません。それを此方で用意しておかねばなりません。子供の生活から云へば、さう云ふ事を中心にして子供の生活を誘導すべきか、云ふ案が立ち、此方の方では、その誘導案の中にさう云ふ事を始終心掛けてゆくべきか、云ふ事を自らの覺えとして案を立てる。即ち保育案はこゝに子供の生活に即する方の意味を、保母諸君に即する意味を二つになると思ふのであります。

これを、私はよく食物の例ばかり引きまして人柄が見える様な氣が致しますが、例へば家庭で心利きたる主婦が生活の獻立を立てるに、これは寄宿舎なんかの、或は兵營なんかのメニューに云ふものは少し違つて居ります。あの寄宿舎、兵營のメニューは、それへ一々書込んである、何であるか知りませぬが、朝、味噌汁、いんぎん豆、薑、薩摩揚げ、

晩は何でせうか、御馳走でカツレツ。その次は朝がトースト、晝が……まあさう云ふ様に色々書いてある。その色々配當して出來てゐるのでありますが、これを料理方が見ては拵へてゆくのではありません。斯云ふメニュー云ふものは、これは出來上つた料理そのものを配當してゆく様なものでありますから、大抵の場合には、その家で出來る料理、可能性の繰返しになつて來るのであります。同じ様なものがくつつかなければいゝ、朝も味噌汁、晝も味噌汁、晝も味噌汁云ふ様にならなければいゝ、ミ云ふ様に配分して居るだけで、特別にさう云ふ風な何をセンターにして、その食事を愉快にするかミふ事はしてない。この食物はこれは一定の時間に皆が來て食ふのでありますけれども、生活が色々流れて來る、それ〴〵の違つた都合で生活が動いて來るのに、その動き通りにきちんとして何が何でも何月何日の配當なら、精進揚げを食ふなければならぬ。何月何日には寄宿舎中が何を食ふなければならぬ云ふ様に食事や何かはきますが、保育案は子供の生活の方から動いてきますからさう云ふ案は立てられない。然し乍らいつ歸つてきても何を食へてもいゝ云ふ譯にはいけない。少し氣の利いた料理方ならば、色々食卓の上に中心的な料理がありその他には色々おいさうなものがありまして、それを多少時間が遅れて出て來ても食臺にあるものを適當に取つて食へる云ふ様ないき方になつてゐる。あの船なんかにお乗りになります、今日はこれだけのものが出來る云ふ中に、今日は特にこれがスベッシュタルミでも申しますか、特別にいい魚がありましたから刺身をする云ふ様に中心料理がありました、それが嫌なら他のものを食べてもいゝ云ふ、中にはこれを食へない云ふ損だ云つて船の中で腹をこわす人があるが、お客を喜ばず全體の食卓が出來てゐるので、都合が悪かつたら後で食臺に行くか、外の人ミ違つたものを食べても勝手であります。斯云ふ出鱈目ではない、あり合せをそこへ出しておくのではなくて、ちゃんミ計畫はしておくが、何が何でもコロッケを食へなければならぬ云ふ様にきちんさない、食卓の案はある云ふ。

これは大さう贅澤な方になりますけれども、保育の場合に於いては、斯云ふ考へ方より外に仕方がないと思ふ。向ふが

向ふの生活に居るのを、何處までも主にしてゆくののであるを考へる以上は、向ふの通りに委せるものであるを云つて、何でも好きなものを食はせる。朝、いきなり刺身を出せと云ふ様な無理を云ふのでは困る。ある範圍内で、さう云ふ事が出来る様にしておくを云ふ保育案が、普通の所謂機械的メニューと違つたものとして出来ると思ふ、處が何を食べてもいゝと云ふものがそこへ出来て自由を許しますが、それを食べてもこの人達に食べさせ度いと思ふものばかりを出して置く様に注意しなければならぬ。ですから幼児が保育案に基いて自由自在の生活をするにしても、その自由自在の中に、先生としては、Aに偏しない様、Bに偏しない様、ある方面だけの生活に偏しない様に云ふ注意を始終すべきでありますけれども、何もそれを此方から料理の上に現に此方の目的を出してゆくのではない。こちらの目的は中に入れておかなくなりやならぬ。

斯云ふ意味で、誘導生活の中では、子供自身が食卓へ出て何を食はふかなあも困つてしまつて考へてゐる中に時間が経つて仕方がないから、お茶を飲んで騒ぐと云ふ無駄な事もしないし、又あの食卓のメニューは、兵營に於てする様に、何でもかんでもこれを食べなければならぬから食べるを云ふ風でもなく、そこには自由さがある。纏り云ひますか、指導と云ひますか、誘導と云ひますか、朝寢の方は不愉快な思ひで食卓に出ても食ひ度くなる様に誘導される様にそれが出来る、それを誘導されるは露知らず、勝手に思はず自由にこつて食べますが、その中には必要な滋養價値が配分されてゐる。斯云ふ様に出来てゐるのが保育案だと思ふ。あてがひ扶持保育案と云ふものは、私は保育案の本當の意味を持つてゐるものぢやないを斯う考へる。

三、誘導保育案

そこでさう云ふ意味から保育案を考へて來ますと、その保育案はさうしても誘導保育案になつて來ると、斯う思ふのであります。

若しも此處に、幼稚園ミ云ふものは先生の計畫通りになつて、きちん／＼ミ教育効果を擧げてゆくのが立前であるミ考へ、何分おきに如何する、斯うするミ云ふ事をきちん／＼ミおきめになつて、丁度何か儀式の時に立つて座つてお辭儀をして、次は歌を歌つて立つて、ミ云ふ事が時間割に分けてあつてその通りやりますが、あんな風にまで神經運動を細かくやつてゆかうミする事は、實際のない事でありませう。それよりも一年の間ミか、一月の間ミか云ふ様に、こちらでは誘導案を立て、おくのであります。子供が幼稚園へ來て何をするかは分りません。此方が出来るのは誘導だけであります。

誘導以外の事は子供が來てからするのであります。子供が居ない中に立て、おくものは誘導だけであります。子供が來たならば斯云ふ處に充實指導をしてやらうミ云ふ事を考へて居りましたが、出て來てその通りやつてくれないミ充實指導が出来ませぬ。けれども、此方でさう云ふ様に子供を誘導しやうかミ云ふ事は、子供を離れて考へておく事が出来るのであります。此の誘導保育案を立てる事が私は保育案の先づ一番本當の處じやないかミさう思ふのであります。

その誘導保育案ミ云ふものは、實際的に申しますれば何であるか、自分の幼稚園の事を例にひきまして、何でありますけれども、例へばある組では水族館をもつて誘導保育案にしておられます。又或組では汽車の遊びをもつて誘導保育案にしておられます。或組では八百屋、玩具屋、或組では海底、釣遊びを誘導保育案にして居る。或は昨年澁り雜誌なごに引きりに載つて居りましたが、或は自動車誘導保育案になりましたり、或は汽車がなつたりして、何か子供の生活に或纏りを與へる様なものを配當しておるのであります。その纏りはすぐに皆様、實際家としての問題がそこに出来来ると思ひますが、一年の中に斯云ふものを幾つしたらいいかミ云ふ様な問題であります。これは、二つのコンデションで決つて來ると思ひます。

一つは子供の年齢になりますが、若しも子供の年齢が極く若い時分に於きましては、生活を中心的誘導で纏める。纏めるのではないが誘導してゆくに就いてその期間が短かゝらざるを得ない、厭きつほいミ云ふよりも、興味が發展してゆく

力が短かゝらざるを得ないのであります。都合によりましては、これが一週間後に別の誘導保育案に移つてゆかなければならぬかも知れませぬし、一月後になるかも知れませぬし、長くて一學期で止まるかも知れませぬ。子供の年齢が段々進んで來ましたならばその生活が連続してゆく力が多くなりますから、そこで都合により一年一つの誘導案で通すところがあるかも知れませぬ。ですからこれを幾つするか云ふ事は、條件的に客觀的に云つてみれば子供の年齢によつて違つて來るのであります。年齢ばかりじやないのであります、子供によりましては、同じ年齢でありまして、一年保育で這入つて來た子供には、これを一區切りにしては纏りが付かないかも知れませぬ。三年保育であつた場合、追がに其の子供達は、生活が或連續性に於て練習されてゐる爲に、これが少し繼續性の多い保育案でも構はない云ふ事になるかもしれない。一定の一つの事を、何分見つめられるか云ふのを注意繼續時間云ひますが、この注意繼續時間の外に、興味繼續時間云ふものもあります。興味繼續時間云ふのは、何分何秒云ふ様な質驗心理學的の見地で出て來るものでなくして、これがずつと幾月續くか云ふ事でもあります。例へば引越の好きな人が大人の中にあるが、これは興味繼續時間の少ない人であります。一つの家に住居一月も經つと嫌になる。しまひには、一月毎に變らなければ氣持が悪い云ふ様になつて來る。勿論、移らない人が興味繼續時間が長い云ふ事はありませぬ。厭きてきても金が無かつたり。無精だつたら移れませぬから……。

何か研究をするにしても、仕事をするにしても、その興味繼續時間の長いか短いかによつて結果が違つてまゐります。この興味繼續時間は、彼等が保育に於きまして養はれてくる大いなる結果であるから、先生は、これは相當に用意しておいた方がいゝと思ひます。形だけの誘導で、實際に子供が誘導されないのではつまらないのであります。あてがひぶち案でなく、誘導保育案を次々こゝ變つたものを持つて來る様に、先生は相當に用意しておく事を必要とします。

もう一つこれの、一年にこの位これが運ばれるか云ふ問題に就いては子供の問題の外に、この案そのものゝ意見による

のであります。この案そのものが發展性をもつて居るものでありますならば、この案自身が形を變へてぐんぐん發展してゆくと思ふのであります。寧ろそれ自身發展性の少ないものでありますならば、これは種類を澤山にしておくより外ないのであります。この發展性云ふ事に就きまして又二つの方向がある。外へ向つて發展してゆく發展性云、そのテーマがつてゐる、内に向つて發展してゆく行き方云ある、内へ云ふ何ですが、色々内へ云ふ細かになつてゆく行き方であります。

例へばあの食堂が出来て居りますステーションの保育、即ち、あそこは所謂、交通機關云ふ事から始つたのであります。子供の漠然たる概念からして、小さな子供では切符を切つたりする事で濟んでゐる。處が子供自身はその内部が、内部的發展を遂げて來て、何かなくちやいかん、云斯う云ふ様に感ずる。進んで考へますれば、あの中で料理が出来、何か出来るかも知れませぬが、終ひには、すりが出て來たり、色々出て來るかも知れませぬが、あれは相當に長く繼續すると思つてゐる。あれを外へ發展させやうとして、品川驛を拵へたり、靜岡驛を拵へたり云ふ風になる云、發展はしますが、その度に別なものになつてしまふ。

船の方：海岸に船がありましてお魚を釣つて居ります。あの船の方は、私は如何云ふお考へがあるかも知れませんが、——船はさう内部發展はしないものだと思ふ。子供が船について持つてゐる興味が、さう細かに……ステーションに就いて内部的に集中的に發展するに比べるとあれだけのものである。そこであう云ふものは子供によりましたならば、繼續度が少ないかも知れませぬ。勿論、釣は子供が好きなものであります。幾時まで釣つても厭きないならばそれはそれで繼續して參りますが、あの魚を料理して食ふ云か何云か云へば、船云は違ふものに發展してゆく。斯う云ふのがいゝ悪い云ふのではないが、内部發展のゆくもの云、外部發展のゆくもの云問題によつて違ふと思ふのであります。そこでその關係からしまして、内部發展の端的であるものならば、一つのテーマで相當長く續く云考へます。外部發展が主になつて來るとき、随分これは變つてゆかなければならぬと思ふのであります。

今迄申上げました様に、一年の中に幾つ位これが這入つて居るか云ふ事は、子供の方の關係に、テーマそのものの方の關係によりまして、色々變つて参りませう。その誘導保育案を立てましてこれを——つまり私も言葉で云つてしまひましたが——所謂、幼児生活がそれを中心として行はれる、それを行ふのではない、それを中心として、それに導かれたり、それに暗示を與へられたり、それに促がされたり、事によつたらそれと反對の暗示をおかれた場合もあるほゞ、それ自體がさせるのじやなくて、誘導の力を持つてゐるテーマをそこに作るのであります。これが保育案であると思ふ。本年度に於ては子供に斯う云ふ事をやらう。一學期は斯う云ふ事をやらう、二學期は斯う云ふ事をやらう、三學期は斯う云ふ事をやらう、それには二つ位に分けて斯うしやうと云ふ案を此處に分けるのであります。之れは從來、全然行はれていなかった事じやないのであります、私の見る處を申しますならば、從來は普通の所謂キチンキチンとした保育をやつて居つた、その間、時々斯う云ふものが餘興的に挟まる。そこで斯う云ふ案を入れますと、此方の事は出来ない云ふ様な、變則的な事柄の様に終る向があるが、多少或る緩おなやまみ云ふ感じが伴つて居たんじやないかと思ふ。さうも子供がこればかりでは單調であるから、時々催し物をする云ふ事になつて來るのではないか。私の考ではテーマを選択して、この案ですつと通して行かふと斯う思ふ。

四、保育案の據りどころ

誘導保育案云ふものを——私は之ればかりで保育案を立て、ゆき度いと思ふのでありますけれども——假にこればかり云ふ事がいかんじししても、さう云ふ案は立つ事は認めるに致しまして、そこでその保育案云ふものを何でも考へられますが、汽車でも、電車でも、山でも、海でも、八百屋でも、玩具屋でも何でも考へられますが、これをさう云ふ處を據り處にして、それを子供に持つてゆくであらうか、選ぶであらうか。

これは別に特別な事を考へる迄もなく、要するに適當なものをもつてゆけば宜しいのであります。然も適當云ふ意味

が色々でありまして、誘導保育案の誘導の意味を、誘導價値を發揮します爲には、子供の興味に合したものでなければ、誘導價値を發揮しませぬ。寧ろ純理窟から申しますれば、子供の興味そのものから誘導保育案が作られて来る云つてもいゝ程なのであります。そこでその子供の興味を此方から探りを入れておきますに於ては、云ふ迄もなく二つの事になつて来るのであります。

一つはその年齢の子供が持つて居ります處の心理的興味である。その年齢の子供は、心理的にさう云ふ興味を持つて居るか云ふのが一つ。

第二には、その子供の環境がその子供に促して来る興味、即ち、社會興味とか、社會條件とか云ふもので、その條件は或は季節であるとか、或は年中行事であるとか、或はその時々 of 事柄、例へば、今度の防空演習云ふ様な事も這入つて来るかも知れませぬ。さう云ふものが適當に取入れられ、それを據り處にして誘導保育案が出来て来るのであります。

五、保育案と保育項目

ところで此の保育案を作りました時に、こゝまで立てゝやりましたならば、これは子供を面白く、楽しく暮らさせるよきお相手としての任務が一つすむのでありますが、もう一步進んで、所謂教育云ふ意味を加へて来る云ふ事になるこゝ、この先き色々考へる問題が起つて来る。

そこで例へば八百屋云ふものを誘導保育案として一つ立てたします。これを春やるがいゝか、夏やるがいゝか、秋やるがいゝか云ふ事は決つて居りませぬ、何んでもかんでも八百屋をせよと決定してゐる譯じや無論ないのですけれども、幼稚園の子供には本屋よりは八百屋の方が興味があるかも知れませぬ。或は呉服屋よりは八百屋の方が興味があるかも知れませぬ。又その子供の環境によりまして、八百屋の方は御承知の通り、子供には面白いに違ないが、今それらの事は實際的に考へられない。それでこれが選ばれますと、これから先は、八百屋の遊びでありますが、これがそれだけの教

育目的を實現してゆく可能内容を、この中に含んで居るか云ふ事を、綿密にやつてゆかなくちやあならぬのであります。八百屋でありますから、兎に角、果物を置きませう。或は野菜を置きませう。その果物、野菜なごをおきますならば、それから觀察が出来る云ふ事は當然にたちます。或は又、その八百屋に看板を懸けたり、ピラを書いたり、色々果物の名前を書いたり何かします事から、此處に文字の問題が這入つてきます。或は八百屋を元にしまして、勘定をする事も這入つて来るかも知れませぬ。或はこれの中へ竝べますものゝ種類に就いて、製作の問題が此處に這入つて来る事は勿論であります。斯う云ふ意味で、それ〴〵の色々な事によつて何が教育されるか云ふ事をこの中に配當して見る。出来得べくんばその配當の澤山出来る誘導保育案が誘導保育案として有效な譯であります。

水族館云ふものをこゝに立てたこゝにしますれば、その水族館についても亦斯う云ふものがずつこ出来てゆくのでありませう。然も、斯う云ふ事を私が特に云ひますのは、知りきつた事ではありますが……従來云ふよりも、近頃の従來でありますが、斯う云ふ様な何々遊び云つたものをします時に、その價値を、賣買ひ云ふ様な事に大變に重きを置く。八百屋遊び云ふものの中には、一種の社會遊びとして賣り買ひもある。八百屋を中心として、その出来て来る生産關係を考へれば、寧ろ農業生産のもので、商業のものではない、遊びがそれを如何う遊ぶか云ふ事が主になつて居つて、それを出来てゆく、作つてゆく云ふ處に保育の色々なものを順々に配當してゆく云ふ事が割合に手輕く考へられやしないかと思ふ。

この事に就て、私は始終考へて居るのでありますけれども、所謂、手技の方はものを作るプロセスを尊重して、出来たものがさうゆく云ふ事は、往々にして輕くみられてゐる様な風があります。電車を拵へて出来たらそれでお終ひである。子供は電車を造るのが目的ではなく、電車遊びが楽しいのに、出来たものを動かさないうで、出来上つたものを成績品としてしまひ込まれてしまふ。玩具は玩具で別なものが充てがはれる云ふ事になるのであります。手技の方はプロセスを尊

重して動きの方が軽んぜられる様であります。今でも、何々遊び、何々ごっこ云ふものは、その運轉手の方が主になつて、作つてゆくプロセスの方がそれよりも軽く見られてはゐるはしないか云ふ事を私は考へる。これをよく詮索してみます云ふに、さう云ふ様に考へられて来る、無理も無い點があるのであります。子供が純粹の遊びの中でやつて居りますマ、ゴトにせよ、何々ごっこにせよ、それは凡てプロセスを極めて簡略に間に合せ、イマジネーションで補ひ、八百屋ごつこをしやう云へば、石ころを持つて来て胡瓜や茄子にして賣つてしまふ。兵隊ごつこをしやう云へば道具などは考へないでやつてしまふ。何々ごつこを子供自身がやります世界に於てはその間のそこまでゆくプロセスよりも、その直接の遊びの方へすぐ行くのであります。

さう云ふ處から、斯う云ふ八百屋遊び、水族館遊び云ふ様にしてゆきます。結果の方へ遊ぶ様になつて来るのも免れないと思ふが、此處の幼稚園では、これが動いて八百屋遊びになり、水族館遊びになつてゆく。ポテンシャルインテレスト所謂潜在的な興味を元にして、さう云ふ長い間、個々の途中をやつてゆく、此處に幼稚園のいき方があると思ふのであります。

家庭教育では、「お母さん水族館遊びをする」云ひ出したします。「それじゃ水族館に魚がなくちやいかん」云ふ様なものを集めてくる、何でも出来るかも知れませぬ。

處が、幼稚園では、個々の處に力を入れるのが、所謂保育の教育目的を到達する所以でありますから、子供の方では魚が作り度いではなく、水族館でポテンシャルインテレストに誘導されてゐるのであります。此處を先生の方では——こゝの處を、これが所謂、先生の一つ一つの誘導保育のテーマの中へ立てたものが這入つてゆく云ふ事になるのであります。所謂この中へ這入つてきますものが、幾つでも這入つて來ます、これが保育項目云ふものに當りませう。保育項目を組立て、保育案を作るのじやないのであります。誘導保育案を立て、それをさう保育項目に利用出来る

か、ミ、斯う逆に考へてゆき度い。保育項目の羅列が保育案でもなく、保育項目が縦に羅列して何等中心のない並び方をも、私は保育案ミ云ひ度くないのであります。これは保育案の配當案であります。さうじやない、生活のテーマが先にいつて、よくみるミ色々なものが這入つて来る。その次の誘導保育では前の案に缺けてゐるものを入れ、又這入り過ぎて居るものを省く事になりませう。保育項目をさう云ふ風にして入れてゆき度いミ私は思ふのであります。

六、保育案の立案度及徹底度

例へば、八百屋の遊びの中にも水族館遊びの中にも観察があるミします。漠然たる観察に止るミ大まか過ぎます。これは當面の責任の不忠實であります。この観察の中で了解をして居る名があるならば、これを作らせ度いミ思ひます。烏賊ミ蛸ミ違つた處があるミするならば、兩方作らせ度い。蟹ミ蝦を作らせ度い、ミ云ふ様な事を考へる。或は八百屋であるならば、茄子ミ胡瓜ミ云ふ様なものを並びてゆくのもいゝでせう。こゝにつまり観察の内容に就いては細かいものを見るのであります。先程の言葉をもう一度申してきますミ、こゝだけが子供に對して、誘導生活をもつて望みます。これから先は先生の懷覺えであります。即ち懷メモミしてさう云ふ様にする。さうかするミ此處の處を並びて保育案ミ稱し、觀察主義で分けて、その中の何をさせ、かにをさせるミ云ふ事を機械的に並びてゐる事を私は嫌ふのである。これは先生の覺えミして、子供の生活ミして行はれてゆく様にしたいのであります。そこで保育案の極く實際は、斯う云ふ様にゆきやしないかミ思ふのであります(圖を板書せらる)。

こゝに水族館ミ云ふものが大きく這入つてしまふのであります。

極く極端に話をすれば、切り方、並び方、七夕祭ミする。切り方ミ七夕祭は違つたカテゴリーに屬する。こゝに年齢に就て、此の一つくが、さう云ふ保育項目が、さう云ふ様に巧く配當利用出来るだらうかミ云ふ事を見るのであります。さう云ふ個の保育項目を、それくの中で分けてゆくのであります。さうして個々に就いてすつミ見通しますミ云ふミ、

この意味からも偏せざる教育目的を子供に與へる事になる。斯う云ふ意味で私は保育案を云ふものは斯う云ふ全體のものが立つのじやないかと思ふ、そこでこゝを誘導保育案で立てまして、さうしてこゝの所までは先生が指導的にゆくかと思ひます。

今日はまあ、八百屋の店の方をしませう。八百屋が出来ないのに、いらつしやい、いらつしやい、なんて云つて居る子供があるさします。さう云ふのは將來、有望なる賣子になるかも知れませぬが、それは幼稚園としては反して来るものですから、そこで、賣り度くてたまらない子供があるかも知れませぬが……又八百屋遊びをしませう云ふみずつこお金ばかり拵へてゐる子供がある、さう云ふお子様は實に將來いゝ奥さんになるかも知れませぬが……こゝの處で、お金もいゝし、賣り方もいゝけれども、先づ買出しに行きませうよ、云ふ處から始めるとする、近所の八百屋に連れて行つてもいいでせう、そしてあそこで取引きをする云ふ段階を経てもいいでせう。農園を作つて知らするならば、或は外へ行くのもいゝでせう。水族館なら蛸踊りなんて云ふものを考へる。

さう云ふ事をやつて來まして、こゝに來ますと、先生が斯うしろ、あゝしろ云ふ事は出来ませぬ。そこで此處は充實指導の方へ子供にくつ付けてゆきまして、子供が鯛なら鯛でも食つて居ります時に、そこへ出ていつて子供のする處に、充實指導の道を取つてゆくのであります。

斯う云ふ様に出來たならば、實に生きてゆくのじやないかと思ふ。尤も根本的に申しますれば、皆が保育案を作る必要に差し迫り、實際は子供の爲ではなく、自己の爲、大部分はお役所の爲に考へる事があります。保育案を示せよ、云ふ、そこでお役所では配當を纏めるのであります、さうも遊戯ばかりやつてゐる、暑いものだから睡眠保育ばかりやつて居はせぬか、云ふ事が當局としては心配でありますから、保育項目がきちんとこゝいつてゐる云ふ事を知つて置き度いのであります、幼稚園では斯う云ふ様なものを此方で拵へて見せてやつたらいいかと思ふ。役所に出すもの、此方でやつ

てゐるものと同じでなくともいふ。此方の考で保育案を作つてやる。これは實に、動いてゐるまゝを豫め案を立て、おいて、さうしてその中で何がどの位になつてゐます、云ふ事を役所の方には出したらいと思ふ。さうして何處かへこれを書込んで置きます云ふ意味で、明に實際を付けたしてもいふと思ふのであります。斯う云ふ譯で、保育案云ふものの恰好も違つて來ると思ふのであります。

さてその保育案が出来ました時に、その案がどれだけ子供に向つて徹底して來るか云ふ事、若しも、あてがひ扶持案でありましたならば、その通り子供にさせなければならぬのであります。この保育案は餘程、誘導性が多いものでありますから、必ずしもその通りさせる事を條件としてゐない。そこでその程度が子供の年齢等で大變に變つて來ると思ふのであります。所謂、何處までその保育案云ふものを窮屈に、嚴密に徹底させるか如何か云ふ事は、子供がその誘導保育案にさう附いて來るか云ふ事だと思ひます。もつこそれを徹底的に考へれば、若しも此處に、子供の生活にびつたり合つた保育案が出来て、それが巧い具合にきちんといきましたならば、その保育案の徹底もさう云ふ様に強い要求をしないでいふと思ひます。こちらではいふ積りで立てました誘導保育案が、子供には、さう云ふ譯か充分深い注意をひき得なかつた云ふ時には、さう強い徹底を要求する事は出来ませぬ。處が水族館を作つて置きましたならば、子供は喜んで、もつこやらう／＼云ひましたならば、そんなに魚の種類が多くなつても構ひませぬ。處がさうかした加減で、面白くなくなつてしまふ云ふ様な時には、この決定は加減をする事は止む得ないのであります。それでありませぬから、小學校に於きまして、教授細目が徹底性を元にして行はれてあります。

七、保育案と自由遊び

さて斯う云ふ様にして出來て來ました保育案の持つてゐる、一つの大きな特色として、その保育案に依つてやられて居ります保育は、所謂子供の自由遊び云ふもの、極めて自由なる關係に置かれてくるのであります。從來の保育案云ふも

のは自由遊びと違つたものであつた。自由遊びは子供の自由、此方であてがふ過程はきちんとしたもの云ふ考があつた。例へば此處に水族館があつたミすれば、その水族館に關係したものを部屋の中でやつてゐるものが自由遊びでないミ誰が云ひ得ませうか。或は外へ出て自由遊びをしてゐる時に、誘導保育案では自由遊びの仕方までが誘導されてゐるのであります。でこれが私、自由遊びミ云ふものミ、保育案によつて指導されてゆきましますものミ、生活ミ云ふ意味に於てちつとも變らないものになつてゆく妙味の存在するものじやないかミ斯う思ふのであります。

八、保育案と保姆

さて斯う云ふ意味の保育案を立て、やつてゆくミしました時に、保姆はさう云ふ位置に立つか。幼稚園の問題を考へます時に、保姆がさう云ふ位置に立つかミ云ふ事が一番大事な問題なのであります。

そこで生活を主にした幼稚園に於ての保姆の位置ミ云ふものは、昨日考へました様な事ではありますが、誘導保育案を斯う云ふ様に作つた時に、保姆はさうするか。

若しも、此方の計畫を子供に強ひる、例のあてがひ扶持保育案であつた時には、保姆は子供の生活の外に立つミ思ふのであります。「皆さん、よく幼稚園にいらつしやいました、今日は何をするか私は考へてゐるが、貴方は知るまい。へびが出るか蛇が出るか、そんなものは出さない、面白く而して有益なものを出す……」なんミ云つて色々ゆつくりやります。中には亂暴な人で、何を爲すか決らないが、口上を云ひ乍ら考へてゐる人があります。さうして計畫してゐるのを出し、今日は折紙、なんミ云ふのを出して来る、子供は何の爲か知りませんが、先生が前口上宜しくやつてゐるから期待して居ります。斯う云ふ期待をポテンシャルインテレストに對して空待ち、空期待ミ云ふ。その期待でもつて先生を信頼してゐるから、いゝやうなものでありますが、段々信頼しなくなつたら困る。それを期待して形式的に緊張して、何だらうかミ思つてゐるミ、「綺麗でせう〜」ミ云つて昨日も使ひ、一昨日も使つたもの、先生も約束した以上「綺麗でせう〜」ミ空興味

を充實してゆく云ふ様な……さうしてそれは如何云ふ様にして……私には出来るけれども、貴方の爲に折つてあげる。或は「出来る人あるかしら？」と人を馬鹿にして「出来たら私が拍手喝采する」と云ふ様な事をやる。これは一種の縁日のインチキ山師保育云つてもいい。

誘導保育案の場合に於きましては、そのテーマが誘導してゆくの本体としてゐるから、子供の来る前に出来てゐなければならぬ。苦心を要するこゝを先生がさうしても先へやつて居なくてはならない。誘導保育案では、テーマは先生が先に考へつてゐなければならぬ。ですから保姆の位置は、几帳に隠れたるものではなく、保育案に基いて先生が先にやらなければならぬ。抑々誘導保育案たるや、子供が相見れば、知らず／＼それを中心とする生活興味に引きづられてゆくのでありますから、子供が来てからじゃなくて、先に始めてゆかなければならぬ。

そこで色んな出方がありませう。八百屋遊びをしよう云ふ時に、先づいゝお天気だから散歩に行きませう云つて出るのもいいでせう。八百屋の前に行つて綺麗なものねなごゝ立止り、場合によつては二つ三つ求めて来る云ふ様に、もう一つ前の誘導段階を拵へておく、保姆がさう云ふ様に具體的な先んじ方をしなければならぬと思ふのであります。

九、保姆の創造性

斯う云ふ意味でゆきました時に、保姆は非常な創造性を必要とする、云ふ事が出来る。この誘導保育案云ふものは、八百屋にしても、水族館にしても、始終保姆が工夫して先へ先へ考へてゐるのであります。「一寸これしませうか」と、斯う半分指導して「それじゃ」と斯う子供がくつ付いて来る様なやり方でありますから、保姆の方には創造性が無くちやならない。決つてゐるものを與へるのではない。今迄はさうかするに保姆が子供よりも先生として進んでゐる所以は、能力に於て進んでゐる事で済んで居つたかと思ふ。「貴方がこの紙で折つたつて巧く折れない。私は巧く折れる。御覽なさい。でも私にはかなふまい……」と云つた様なのが、所謂そのやり方で、即ち先生云ふものは、能力に於てすぐれてゐるこ

云ふ事で誘導してゆくのであります。しかしそれでは足りない。子供より創造性の強いものでなければならぬのです。

さて此處に皆さんがお氣付の通り、創造性の勝れた幼児の間に保育案があるのであります。幼児の、技倆の下手なる事は申す迄もありませんが、創造性に於て、實に潑刺活潑である云ふ事をよく御承知でありませう。私共相手して居りまして、子供の方がごんなに巧く創造をしても、表現する技倆が足りない爲に、もごかしくも、そこに出て來ない事がある場合があるのであります。先生は巧いけれども實に創造性に於て乏しい。人によつては相變らずのあれをやつてゐる人がある、二十年も同じ事を續けてゐるならば、巧くなるに決つてゐる。

斯う云ふ意味で誘導保育案を立て、ゆく上に保姆の創造性を非常に必要な條件とするのであります。

十、保姆の生活性

さて保姆は斯くの如く創造性で色々なものを作り出してゐる。八百屋の店へ行つても色々變つたものをしなければならぬ。概念的でなくて實に一寸したものでも八百屋らしい、一寸此處が斯うなつてゐて八百屋らしい感じがするとか、例へば西洋の幼稚園の寫真を見るによくある、人形の家が出來て居りまして、屋根があるでせう、壁があるでせう、子供が寢てゐるでせう、ザツボール、ミ云ふのでなくて、その子供の家を造りますミ、家根の處に鳥の巢を置いてみたり、犬を置いたり、或は呼鈴の鈴を下けてみたり、一寸したものを働かして生々してゐる、それが創造性であります。

八百屋にしましても、果物が置いてありますけれども、その側に野菜物に水をかける如露が置いてある、ミ云ふ様になつた仕組で子供がにこ／＼笑つてやつて居る。要するに生活興味を誘導してゆくのでありますから随分氣のきいたものになつてゆかなければならぬのであります。それからその生活興味によつて生々した子供が引立てられる様になりませうが、こゝに一寸子供はその誘導保育案によつて、八百屋なり、鮎釣なり、色んなものが出來て來たミする。子供はそれを作る事の興味を促されてそこに來たのであります。元來誘導保育案の出來ました所以が、生活の動きを本體ミしてゐる、

そこでこの出来て居りますものを、單に八百屋なるもの、水族館なるもの、こしないで、これを生活的に動かしてゆく。その生活態度ミ云ふものが保姆の方に非常になつて来る。

これは問題を大きく擴げますならば、學校教育に於きまして、實に教師の大なる缺陷は生活性の缺陷であります。創造性の足りない先生も居るが、生活性の無い人も居る。そう云ふ人は手紙を書いても、速達か書留か云ふ問題に就いて決定しないのであります。唯手紙を書いておいて、それを入れておけばそれでお終ひになる。こうではなくて凡ての問題を現實の生活に動かしてゆく、そこに目的の動きを先生が持つて、八百屋を作ります、子供が瓶を轉がしてゆきます。「駄目よ、その處は道端じやないの」云へば生活になります。「そんなに積んでお客様は何處から這入るの……」云へば、子供は優しいお客様が這入れないと思ふ、一口云へばそれが生活性になつて來ます。凡てのものを生活で生々して持つてゆくミ云ふ事は、氣が付かぬ人から見ると、氣の付く人はトレンチで云つてゐる様に見えますけれ共、その人の頭が生活的に動いてゐる人ならばさう云ふ事は當然になつて來ると思ふのであります。

斯う云ふ意味で、私は誘導保育案ミ云ふものは保姆自身がその中へ這入つてゆくミ云ふ事ミ、その方の創造性ミ生活性によりまして、更に生々したものになり、誘導性のタップリしたものにして、幼稚園に於きまして充分な位置を占めてゐるものじやないかと思ふのであります。

これで先づ第二の保育案の實際に就ての話を終る事にします。

二、保育過程の實際

一、幼稚園の朝

幼稚園保育の本當の意味を第一義ミ致しますると、その計畫案ミ云ふものは前申上げた様になると思ふのであります。

乍併、此所迄は理論ミ及び計畫でありまして、幼稚園そのものが本當に生きた働きを其處に表はして來るのは、毎日の所謂、保育過程であります。一日の保育が何う云ふ風に動いて行くかミ云ふ事に歸著するミ思ふのであります。又、保姆諸君のその人ミしての本當の働きが活躍して來ますのも此處でありまして、如何に立派な保育案が立ちまして、それに周到なる目的があつても、之を何う生かして行くかミ云ふ事は、保育過程に於ける保姆諸君の活動にまつのであるミ申しいミ思ふのであります。

其所で、その保育過程を、幼稚園眞諦に基いて考へて見たならば、何んな風になるかミ云ふ事が今申し上げる問題でありますが、之を斯う云ふ風に、ミ示せる様な、一般的形に於て考へる事は非常に困難な事なのであります。

理論は兎に角、其所に或一つの通有觀念を立てる事が出來ます。保育案ミ云ふものを立てるミ云ふ形式は、理論に於きましては一般に通用するものが出來得るのであります。日々の幼稚園ミ云ふものは、實に、其の日其の日變るのであります。或は其先生の人柄ミ言ひますが、趣味ミ言ひますが、良し悪しミか、上手い下手いを離れて、其人らしい幼稚園が實現して行くに相違ないのであります。之も此所に通有の一つの形式を立てる事は無理なのであります。寧ろ幼稚園過程が或通有の形式で、斯う云ふ風に保育して行くべきだミ云ふ型を示す所に、幼稚園ミ云ふものに膠をつけてしまつた様な窮屈なものになるのであります。之は自在にまかせておけばいゝ譯であります。幾つかの要點を考へて見度いミ云ふ丈の意味であります。

その意味からして、日々の過程に於ける幼稚園の朝ミ云ふものが非常に重要な意味を持つて來る事は申す迄もないのであります。幼稚園の朝が、如何に大事であるかミ云ふ事は、色々の意味から、從來の皆様の御注意になつて居る事に相違ないのであります。或は如何にして子供を幼稚園が受け取るかミ云ふ意味に於きまして、それゝの御注意がある譯であります。私の此所に特に考へ度いミ思ひますのは、一日をして所謂生活本位の幼稚園にして行く事、之は朝の一寸し

た仕向け方に大いに關係がある云ふ事を申し度いのであります。

従來の幼稚園の或通有の型を申し、かと思ひますのは、朝は一應幼稚園へしつかりをに入れて、それから色々解いたり散らしたり緩めたり云ふ風な順序に行く風があるが、若し幼児生活のそのまゝを、何所迄も幼稚園の土臺にして行かうとするならば、朝に於て何の位自由の感じを子供に與へるか云ふ事は、極めて大事な事と思ふのであります。昨日申しましたアメリカの新しいナーセリースクールが、朝、子供が來ます自由なる生活に入れる、云ふ事が實行上しては相當極端な風にお考へになるかも知れませぬが、それもさう云ふ精神から吾々の参考になると思ふ。

二、自由遊びから仕事へ

兎に角、朝は實に自然の家庭生活の形態そのまゝで、すうつ幼稚園に來るのであります。仍て其幼稚園を、成可く殊更めかしい形で子供に影響させない様な注意が必要だと思ふ。その結果、大體に於て、朝は先づ自由遊びから始めて行く云ふ風に考へて宜いかと思ひます。勿論之は毎日の事で、時によりましては又色々の御計畫が立ちましても構ひませぬ。之は一つの形を申上げて居る譯ではないのであります。今言つた様な精神から先づ自由遊びがそこに始まると思ふ。その自由遊び云ふのは——所謂自由遊び云ふ言葉は何であらうか言ひます云ふに、子供が自由感を持つて遊んで居りますのが自由遊びである事は言ふ迄もない。ですから、幼稚園教育が遊びの様な形式を持つて居りますものでありますから、その中で自由感を存分に持つて居るか何うか云ふ事に依て、自由遊び云ふものゝ色々の形態が現はれて來ると思ふ。昨日、保育案に自由遊びの關係を申し述べて、保育案云ふものが何であつても、これが誘導保育案である場合に於ては、自由遊びに迄影響して行く云ふ事を申ししたのは、その誘導保育案の誘導して來る興味の内容に依て、遊び乍ら、而も自由感でやつて居れば其れが自由遊びになる云ふ意味でありますから、此自由遊び云ふものゝ、誘導保育案に依て立てられて居ります生活内容は、必ずしも別なものであると定つて居りませぬ。自由遊びはごんごん馳け廻つて

居る事で、何か紙を弄んで或物を拵へる云ふのは、自由遊びではない云ふ事は言へない。何だか私のひねくれた見方も知れませぬけれども、「遊び」云ふのは所謂保育項目の何れでもないものが自由遊びの様に考へられる傾きがないでもないのではありませんが、内容としては何時も私が申します通り、保育項目そのものが自由遊びの中から持ち出して来たもので、自由遊びを見て居ります。保育項目のされかゝ行はれて居るのであります。而もその保育項目の内容に就ても、誘導保育案の方から導びかれて来た場合に於ては、子供が自由遊びをやつて居る事、先生が所謂保育項目を主としてやつて居る保育、變つた内容ではない事になり得る。さう云ふ意味からして、子供が朝来て、先づ自由遊びになる云ふのは、何云ふ事なく——今は自由遊びだから缺を使つてはいけない。自由遊びは幼稚園をブラ／＼して居る事である。お部屋に這入つて何かしようとする云「今は自由遊びですからサッサと出て」云、斯う云ふ風に考へる必要はないのであります。さう云ふ意味からして中には、たゞ遊びの時を過す可く幼稚園の庭を逍遙して居る風流な子供も居りませう。或は少しづらついて居ない云ふ纏まりが付かぬ云ふ様なタイプの子供もありませう。大人でも、何かしようとする云、「暫らく休まなければ力が這入らぬ」云その休み時間が長いタイプの方がある。或は何かしたはずみで、子供達の間に、自分の思ひ掛けない何事も起つて来る事も妨たけなうであります。この意味からして色々な内容の自由遊びが起ります。けれども先づ先に来るものは先生が、出来る丈指導要素の多く加はらない、ましてや指導云ふ事が多く加はらない意味に於て、極く自由感に満ちた時間に出發する云斯う考へていゝかと思ふ。

私は、又かき多くの方がお考へになるかも知れませぬけれども、何う考へても朝の會集はつく／＼反對になつて來るのではありません。私の心境を正直に申し上げますならば……會集反對論を出したのは十何年前若かりし頃であります。其時は随分若氣の理論で、私は理論は強いが氣は弱いので、理論では、いけないと言ひ乍ら實際に於ては、いゝでせうと言ひつゝ、更に進んで、そんなに反對しないでもいゝ様な氣持になり度い云、始終自分でも思つて居る位であつた。所が何

うも年々、私の會集反對意見云ふものは色々な方面からそれが強くなつて來るのでありまして、今日では向ふの人の御顔色なきを恐る々々窺ふ云ふ事は卑怯である云確信するに至りました。

理論は先に出て、其れが自然に變つて來る。先に自然が出て其れを理論に拵へて行くのではない。何うしても、幼稚園云ふものを斯う云ふ風にするのが本當云考へる以上は、朝の、自由感を本體とする立場から、會集云ふものが何うしても其所に狭まつて來る氣分になれないのであります。まだ私、遠慮深いので此位で止めて置きます。

その自由感に満ちて居ります朝の時間が、十一時過ぎ迄續くのがいゝのか、三十分位できり上げるのがいゝか分りませぬが、生活のある自由感から、段々に變つて行くのではないか。之がああ目的の爲にしくちやならないのだ、或處までやりおゝさなければいかぬのだ、隨て或意味に於て出來る丈うまくしたいものである云ふ様に。もう一度申しますならば、あの目的の爲にやつて行くのである。或程度迄はしおゝさなければならぬのである。し遂げなければならぬのである。併せて、出來る丈うまくやらなければならぬのである云ふ様な感じが、程度は極めて色々であり、極く薄い場合もあります。自由感以外のさう云ふ感じが加はつた、さうなる云之を私は假に仕事云名付け度いのであります。

人間は自由を求める當然の要求がありますと同時に、自分の生活に向つて、其位の纏まりを求める要求も自然あるのがあります。人間が職業を求める云ふ事は、人間の自然心理であります。職業を求める云ふのは必ずしも、ルンペンをして居ては心もこまない、定収入がなければ困る云ふ丈から來るのではなくて、何か目的へ結びついて或生活がしたくなつて來る。同時に、或所迄仕上げなければ氣が濟まぬ。窮屈さうな事ではありますが敢へてそれを求める。さうなればたゞ目的に結びつけて仕上げをすればいゝだけでなく、出來上るものを良くしたい云ふ感じが起つて來る。

自由感云精進感が、健全なる人間に於ては兩方共自然であります。人に依て何方かの強い人があります。然し私がこゝに申して居る精進感云ふのは、力の様で、實はさうではない。何か仕事を——佛語の言葉は知らないが——勤めて行くこゝ

云ふ事であります。勤め、云ふ「勤めの辛さ」云ふ事になるがさうではない。精進の樂しみである。斯う云ふ事は人間の自然性です。性格の缺陷者は之を持ちませぬ。性格が健全であるならば之を持ちます。之を持つたから云つて自由感がないのは、性格の變質であります。而も私がこゝで言ふのは、義務でして居るさか、義務でして居るさか、役目と思つて嫌でもして居るさか云ふ様な世間普通言ふ所の、仕事を強ひてする精進とは違ふ意味を持つて居る。

義務云ふ押しで、義務云ふ綱で人間を縛りつけるのではない。さうでない所ではない。反對に斯う云ふ事がナチュラル：大人もさうでありますが幼児に於きましてはよくあるのであります。「ある事はあるかも知れぬが幼児の自由性の豊かさ比べて餘りに微かである」云仰言るかも知れませぬが、私は、幼児の自由性も幼児相當に實に弱い：云ふ言葉は當りませぬが、そんなだと思ふのであります。

保育に従事する事極く年の淺い方は、幼児云ふものは、手もつけられない横紙破りの様にお思ひになるかも知れない。まだ幼児云ふ、あの生活程度の持つて居る自由感の要求は知れたものであります。吾々の持つて居る自由感は非常に大きい。幼児は知れたものです。ですからあの幼児に満足する自由を與へるならば、直ぐ満足する。止め様とするから大變に横紙破りの際限のない自由らしさに見えるが、知れたものです。その自由感さへも幼児には知れたものゝ程度でありますから、幼児の持つて居る精進感も、程度は大したものではない。吾々のは：吾々以上の人は、非常なる自由感も非常なる精進感を持つて生活して居る。その兩方ともいゝ加減な人を、程度の低い人云ふのであります。そこで幼児の精進感は弱く管である。自由感が僅かである如く之も弱い。そこで自由感から精進感に移つて來るころに自由遊びから仕事へ云ふ道が出來て來るのであります。

子供が自由云つて遊んで居るが、其中、あまりに自由だが、何か吾等の精進感を滿す方法はないか云ふ氣分が出て來る。それが、自由を味はせない之は出ない。腹がすかなければ食欲が出ないと同じである。所謂、お腹の中のきれい

な自由感の生活を定めて與へられれば、今度は此方が欲しくなる。

其所で、こゝに來た時に、私は實に子供の朝の生活を見て色々な姿を見るのですが、子供は、精進感が起つて來て、何うしようかと思つて困つて居る。「御同様、お互に自由だけでは人生は面白くないですな」ミ子供が二人話して居る。「何處に精進を求む可きか。其れは先生の處に行つて決定をして貰はうじやないか」ミ云ふ事になつて居る子供がある。そこで先生の處に行つて「先生何か仕事は御座いますまいか」ミ斯う云ふ事になります。

私は憐れなものだと思ふ。職業紹介所へ出掛けるのと同じであります。實に憐れである。さうするミ先生は「よく私の處に聞きにいらした。私は仕事をあなたに、仕事して與へる」ミ云つて與へて下さる。それで「成程先生だ」ミ先生も子供も思つて居る。いよく情なくなる。先生の處に行かなければ職業が貰へない、ミ云ふ風な事よりも、幼稚園そのものの形態が、子供の自由感ミ精進感ミを實際に取捨選擇出來る様に、先に豫じめ出來て居なければ話らないと思ふ。

「先生何をするのでですか。今度は何をするのでですか。もう之でいいのですか」實に奴隸的精進感であります。さうしてさう云ふ風に馴らされて居る。段々さう云ふ風に馴らされて來る事が幼稚園の慣はしであつたりしはしないかと思ふ。家庭に於て遊びを、子供がたゞ庭に出てガヤ／＼やつて居るでせう。其中には、お母さんが洗濯をして居る側に行つて洗濯をやる者も居りませう。或は室が與へてあつて自習の道がついて居ればおさらひを始める。斯う云ふ様にすうつミ内容は別に變りはしない。所謂自由感でするか精進感でするかであります。幼稚園に來るミ一々先生に伺ひを立て、自己の生活を求めて行かなければならぬミ云ふ事が既におかしい。斯う思ふ。この意味で、自由遊びから仕事へ、ミ云ふ事をさう云ふ風に解釋し度いと思ふのであります。

さう云ふ風にしようと思つても子供がしないで困るミ云ふ方がある。斯う云ふ風になり得る様に凡ての計畫ミ施設ミ態度を定めて置いて、さうして思ふ様にならなかつたら、幼稚園に責任があるのであります。子供が悪いのではない。

さて、斯う云ふ風にして所謂仕事へずうつこ這入つて來たごしますならば、この這入り方は恐らく個々的に這入つて來る事は當然であります。

皆が集つて「何うですそろく、仕事にかゝりませう」——私の家の隣で此頃建築が始まつて居りますが、誰かゞ仕事をそろそろ始めませうか云ふこ、それでは嫌でもついて來る者があり、或は皆が休んで居るのに自分だけしてはつまらぬ云ふ感じの人、色々ありますが——幼稚園で、自由遊びから精進へ這入るのに、何も列を作つて這入る必要はない。ラッパが鳴つたら精進へ、云ふ事は自發的に仕事に來て居ない證據であります。先生が顔を見せたならば、急に勉強らしい顔をする云ふのではないから、バラ／＼に來る。それがずうつこ續く事もあれば、分團云ふ一つのグループになる事もありませう。多分グループになりませう。グループになると同時に、そのグループの集りこして組云ふものがそこに出來て來る事がありませう。この組に來る事は……所謂あの幼児の生活感から、四十人一かたまりになる云ふ所迄行く事は、可成り私は幼児の年齢としては多過ぎるかと思ひます。

幼稚園に於て、個から發生して來るものはグループだと思ふ。グループになつてもならなくても宜しいが、個々に來ると思ふ。其れで、個、分團、組を書いてあるのは、斯う云つた、生活は個からグループに來る云ふ順序を示して居るので、今日の幼稚園が、若しこの組から分團へ、分團から個へ、こ考へて居るならば之は逆になつて來るのであります。組全體を考慮して、さうしてその組云ふものゝ中で大き過ぎる云ふので、丁度遊戯のコースの様にグループに分け、さうして吾々、心理學的に個を尊重しなければならぬ云ふので個を織り出す。斯う云ふ考へ方になつて居るのこ、私の言ふのこは違ふのであります。自由感をもつて、個の生活から始まつて居るこすれば、個からグループへこ云ふ順序に行く可きだこ考へるのであります。殊にグループ云ふ事が……色々の意味で此問題を考へますが……グループの位置、形式こし

て協同云ふ事を云はれます。個人製作でなくて協同製作云はれる。協同製作云言ひますと、斯う云ふ机の前に竝んで「之はあなた方皆さんで作るのですよ。生活云ふ仕事を何う分配しませうか」さうも吾々は全體を分ける事許り考へる。小さい時からお煎餅を幾つにも切られたり、お饅頭を分けて貰つて来た育ちからのさもしい考ミ思ふ。何か持つて来て「たつた一つしか持つて来ないので「分けて上げようね」云ふ。子供も、下さい云ふ言葉を知らないで「分けて頂戴」云ふ。分割性を食云つた様なせち辛さでありませう。教育云ふものも、渾然たる生活があつて、保育案が饅頭の様であつたら全體へ分けて行く事になりませう。

或は、子供が「誰さんも私の方をしますので云言ひますと、先生が「あなたのする分が廣いのですからいゝじやないか」さ情ない事を云ふ。或は協同製作をし乍ら、その中に一々色々な、誰々云ふ標を立てたりする。又よく寄せ書をする。五人なら五人が寄せ書をして色々なものを書く。所がその寄せ書の中で、自分の書いた處だけ輪廓をつけて「之は俺のだ」云ふ風にする人がある。

さう云ふ意味の協同製作ではなく、個でやつて居る中に、人間は自ら其れが或個々のものにならないで、全體に纏まつて來る事を認める。自分の作つたものが——此コップは誰が作つたのかわりませぬが——誰かの作つたコップが誰かの作つた水差と一緒に居るさうだ聞けば嬉しく思ふでせう。個そのまゝさつかに藏はれて居たのでは淋しさに堪へないと思ふ。ですから個々に自分がやつて居る中に、それが全體の中に這入つて行く自然性がある。あの水族館にもあゝ云ふ協同のものが多し。此所は誰が作る、鮎掛り鯛掛り云ふものが出來て居るのではない。あゝ云ふものがありますと、同じ鯛を作るにしても全體の中に這入る云ふ氣分が強くなる。只部分に行く云ふよりも、部分が繋つて全體に行く云ふ事が大きな自然であります。教育目的論の方から考へましても、さう云ふ風に人間を養ひ度い。自分のして居る事が實につまらぬと思つてやつて居るが、圖らずも全體の中に入つて居た云ふ事に氣が付く嬉しくなる、全體のするものゝ

役を分けられて始めてやる、ミ云つた様な生意氣な考ではなく、自分は小さい事をして居る、ミ云ふ。「何の事もなく一人一人の人が寄り合つて全體が斯うなつて來たのである」。ミ云ふ様に、目的論から言つてもさうであります、自然の成行きもさうであると思ひます。ですから、個から分團へ、分團から組へミ云ふ風に段々なつて來ると思ふのであります。

四、個の時間割 五、生活態度による分團の組合せ

其所で其次に一寸變つた事を申すのでありますが、私は昨日時間割の事を一言言ひまして、時間割は保育案ではないと言つた。之は保育案の本質の意義を明かにする爲であります、さてその時間割が、必要であるか必要でないか。之は存在の意味があると思ふのであります。

結局、教育は均等、同じ幼稚園に來て居る子供が、或子供は大變に活躍して居り、或子供は何もしないで居る。それに皆均等に教育結果を持たせる。自由であるのは、正しい考それがあるからこそである。

あの、組ミ云ふものを色々時間割でやつて居るのは別の理由があると思ふ。悪い方から云へば、あれが一番面倒臭くないやり方であるかも知れない、然しもう少し表面から解釋すればさうする事に依て教育が不均等にならない。時間割を作る事は先生の任務になる。

ダルトンプランは、インデイヴィジュアルアツサイメントによれば斯うであります。皆自己の時間割を持つて居る。其れを先生が見て、皆違つて居るけれども、皆教育は相當に受けて居る事をアツサインして居るのであります。ダルトンプランは中等教育に依て最もよく實現する。幼稚園に於て皆實行させる事は出來ますから、其子供自身が行いますインデイヴィジュアルアツサイメントを、先生がお作りになればいゝじやないかと思ふのであります。

自由から精進へ、個からグループへミ來て居るが、見て居るミ、時間割を作るミ云ふミ大變ですが、心覺えてやつて居る。花ちゃんは此頃何時でもひよろ／＼して居る。三郎さんは何もして居ない。太郎さんは一生懸命やつて居る。斯う云

ふ事をお心付きになつて居りますならば、之が即ち、花子三郎太郎の時間割になつて来るのであります。

幼稚園で出席簿を云ふものをつけて居りますのは、自分は、調査する意味でつけるのではないと確信して居る。皆様が與へようとする教育が、休む事に依て與へられないと云ふ事を、心覺えするためにつけて居らるゝ事を信頼する。あの出席簿は、個の出席簿ではない。幼稚園生活の教育効果に於て、出席簿を作り、個の時間割をお立てになつて望むのではないかと思ふ。何も之は勤務表ではない。こんな事をするにすぐ奨励表になつて、黒板の隅につけて、激勵なされるがさうではない。

その個の時間割を作りますのは、三郎がブラ／＼して居るので教育効果が悪いと云ふ時に、親を呼んで、他所の御子さんは斯う云ふ風です。お宅の御子さんはこう云ふ風で幼稚園の生活形態の組方がさせて居る教育効果を三郎さんは取らない、せいふ事を説明する。すぐ醫者にかければ、心臓が悪かつた、それでは斯うなるのは無理はない。検査表の様に簡單ではない。さう云ふ風にその子供について行くのがいゝのか。同じにする事が必ずしもよいのではない。さうして、三郎は心臓が悪かつたから一學期は斯うしたが、二學期になつては、太郎さんに比べては駄目だが三郎としては進歩して来た、と云へば、三郎さんに於て教育價值が増したのであります。

四十人位なら、個の時間割を作る事は何でもないと云ふのであります。うまく行けると思ひます。あの一番奥の舟のあの組に、仕事による一人々々の時間割が表にしております。あそこには、誰が何をしたと云ふ事を記入しておく、それが一週間位経つと、何う云ふ風に違が出て来たかと分る。斯う云ふ風な事はその仕事をして居る事を中心にした時間割であります、之を全體的にやつたらいいと思ふ。

幼稚園が大事な事は、子供が歸つた後、今日一日が自分の保育に依てさうなつたか。子供達に依てさうなつたか云ふ事を思ひ見る、その三十分にあると思ふのであります。斯う云ふ意味で、其子々々の生活時間割を云ふものゝ意味をよく考へておいたらいゝと思ひます。さうしてその個の時間割を云ふのは、一つ大いに御考へ願ひ度い。個性に屬する教育、

ミ云つた様な心理的抽象的な事を考慮しておいでになるが、それも大事であります。もつミ現實の、事實の個別的なものも、當然出来ていゝミ思ふのであります。その個別的なものをしらべるミ、精進感の中の目的ミ結び付いて來ます。

斯う云ふ様にして先生の方では、周到なる氣分を持つてお出でになり、又實に周到なる注意をもつて子供達を見る。それで子供達は自由感から精進感へ、又自由感に出て行く事もあります。私は、幼稚園が誘導保育案をちやんこやつて居るミ云ふ事を前提ミして話して居るのであります。ですからもう其處に這入るミ、或生活興味に満ちて來る。之が青年でしたら空の室へ這入つても圖書館へ行つても勉強するのが當然であります。幼兒はさうは行かない。

六、流れゆく一日 七、流れの向け方

斯う云ふ様に先生の方では非常な努力をして居りますが、子供は誘導されて居るミも知らず、實に流れる様にすうつミ行くミ思ふのであります。假に、流れ行く一日ミ洒落た言葉で表はして見ました。

先生の方では大變であります。子供の生活は小川の流るゝ流れ、先生は汗の流れ行く一日であります。が仕方ありません。而もその流れ行く一日を、流れ過ぎるミ云つて喰ひ止める。それ〴〵に對して流れの向け方を變へて行く所に、その先生の微妙な技倆が出て來るミ思ふ。流れを止めるのではない。丁度、支へて見たり、溢れさしたり、色々な事で流れて行く自然の生活過程の向け方を色々な變へて行くのであります。

八、生活の偶發性

之だけを以て、先づ保育過程の實際の大體的なものミ考へますが、生活を相手にして居る限り生活を本體ミして取扱つて居る幼稚園ミ云ふものは實にその人の幼稚園であり、その子の幼稚園でありまして、所謂教育ミ云ふ概念をもつて一切が律せられて行く性質のものではない。寧ろさうなればその幼稚園に起つて來る偶發事項ミ云ふものは——生活が生きて居れば色々な偶發が起ります——その偶發ミ云ふものを一々適當に取扱つて行く事は當然大事な事であります。形を定め

た場合には、偶發事項は邪魔になります。流れ行く一日の遊び、岩があつたから堰止められ、急な瀬であつたから溜つ瀨になり、ミ云ふ様な普通の流れの他に、ひよつこして、石で物が支へたミ云ふ様な色々な事件が起つて來ましたならば、之を始終取扱つて行くべきかと思ふのであります。同時に又この保育案の、私の申上げた事は大體に於て、所謂教育内容を取り上げざる保育案を考へたのであります。一日の生活課程ミ云ふものを出来るだけ尊重すべきだと思ふのであります。

九、日々の實際生活の尊重

之は、昨日一寸他の意味から申上げた事で、所謂コンダクトカリキュラムを主張するのであります。繪を書くとかピアノを弾くのもコンダクトカリキュラムと言ひ得るが、私の言ふのはさうではない。朝、手を洗ふ、お辨當の時に何うする、教育から云へば、實際的に過ぎて居る様な事に就て、始終之を大いにやり度いと思ふのであります。もう少し今日の幼稚園が、實際生活に重きを置き、それにもう少し何かを入れて、その爲に時間を取られる事を惜しまない、ミ云ふ風な事をして行つていゝと思ふ。

其實際生活を二つに分けて、所謂全然そのものに必要なる實際生活ミ、幼稚園の集團生活をして居りますが故に必要な實際生活ミに分けます。之を兩方共尊重したい。自分自身の爲なら、帽子を脱ぐとか、或は食後に嗽をするとか楊子を使ふとか、汚れたら手を洗ふとか云ふ事は、幼稚園でなくてもやる事でありませう。保育ミ云ふ事になればお辨當の時に何うするか全體の爲にやつて行きます。併し斯う云ふ事は大いにやり度いと思へるのであります。

十、おかへり

若し、斯う云ふ風に朝の自由からずうつこ一日が來ました時に、歸りは何うするか、

このお歸りに就て私は、お歸りの時だけは幼稚園の先生の考を強くして行くべきではないかと思へます。朝お早うと言つてずうつこ這入つて來た幼稚園、その間に一日の疲勞があり、先生は時によりましては心なくも荒い言葉を使つたかも

知れませぬ。或は子供達に向つて、つひ言はなくてもいゝ理窟つほい事も言つたかも知れませぬ。子供が先生、を懐いて來たのに返事を忘つた事もあるかも知れない。その子供の方の微かなる感じ、是等の全體の決算がおしまひの時間にすうつゝ來て居ります。この一日を、生活力のエナジーから言つても感情から言つても、もう少しピツチリ納め度いと思ふのであります。來た時に丁寧でなく、歸る時丁寧なのが社交作法である事は云ふ迄もない。日本の禮儀は來た時に非常に丁寧で、歸る時は何時の間にか居なくなる。初めはお客の如く歸りは鼠の如し、ここそく行くのであります。その反對に歸る時に一切の事を話して、ちやんこしてゆつくり別れるのが作法であります。私は幼稚園もドツシリしたお歸りがいいと思ふ。手が汚れて居たら洗はせませう。何ならばブラシもかけてやりませう。鼻がたれて居たら拭いてやりませう。

幼稚園をして、今迄は實に子供の自由にやつて置き、幼稚園に居るに云ふ事を忘れさせるが、歸る時には幼稚園から歸るらしい歸らせ方の感じを一ぱいに持たせ度い。私はよく幼稚園でおしまひに紋切型に「今日の稽古も済みました」を歌つて歸つて行くあの心ない歌は大嫌ひであります。お歸りは三十分かゝつても一時間かゝつても宜いと思ふ。「もう仕事も済んだ」「誰々を喧嘩したがもう仲良くなつた」「ミカ色々の事がきつしりして徐ろに歸る。幼稚園にフレッシュに來たが徐ろに歸る、ミ云ふ風にして送り度い。ドチャンく來てドチャンく歸るのではなく、河の終る時の様に、幼稚園は送り度い。幼稚園から歸つた子供を念入りに迎へる事を家庭に要求していらつしやるでせうが、それを念入りに送り返すのは當然の事と思ふのであります。初めの中は大變にきちんこやりますが、先生も疲れ子供も疲れ、汗を拭いて居る間に二人三人を行つて了ふ事はあり易い。

これで今回の講義を終ります。(文責在編輯部)